学位申請の手引き

令和８年度

産業医科大学大学院医学研究科

医学専攻

Ver 3.0

.0　目　次

１．産業医科大学大学院の概要

1-1.　教育研究上の目的 ･･ ０４
1-2.　学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー） ･･････････････････････････ ０４
1-3.　学位論文審査基準 ･･ ０４
1-4.　医学専攻の構成 ･･ ０５
1-5.　医学専攻の教育課程 ･･ ０５

［付録 1］　医学研究科を構成する講座等 ･･････････････････････････････････ ０６
［付録 2］　履修モデル図 ･･･ ０７
［付録 3］　学位取得までのスケジュール ･･････････････････････････････････ ０８

２．履修・研究計画

2-1.　教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー） ･･････････････ １０
2-2.　授業科目の概要 ･･ １０
2-3.　講義の形態 ･･ １１
2-4.　出席確認について ･･ １１
2-5.　研究指導の方法 ･･ １１
2-6.　研究指導計画書の作成 ･･ １２
2-7.　長期履修制度について ･･ １２
2-8.　在学延長について ･･ １２

［付録 4］　授業科目の概要（科目の名称、講義等の内容） ･･････････････････ １３
［付録 5］　令和８年度　受講希望科目調査票 ･･････････････････････････････ ４１
［付録 6］　研究指導計画書および記入例 ･･････････････････････････････････ ４９

３．学位申請

3-1.　課程修了による学位授与の申請について（甲号） ･･････････････････････ ５６
3-1-1.　申請資格 ･･ ５６
3-1-2.　受付期間 ･･ ５６

3-1-3.　申請 ･･ ５６
3-1-4.　論文の受理 ･･ ５６
3-1-5.　論文審査、最終試験 ･･ ５６
3-2.　早期修了について ･･ ５８
3-2-1.　申請資格 ･･ ５８
3-2-2.　受付期間 ･･ ５８
3-3.　論文提出による学位授与の申請について（乙号） ･･････････････････････ ５９
3-3-1.　申請資格 ･･ ５９
3-3-2.　研究歴 ･･ ５９
3-3-3.　受付期間 ･･ ５９
3-3-4.　申請 ･･ ５９
3-3-5.　論文の受理 ･･ ６０
3-3-6.　論文審査、最終試験 ･･ ６０
3-4.　論文提出による学位授与申請者に対する外国語試験について ･････････････ ６２
3-4-1.　受験資格 ･･ ６２
3-4-2.　出願期間 ･･ ６２
3-4-3.　出願手続 ･･ ６２
3-4-4.　試験科目 ･･ ６３
3-4-5.　合格発表 ･･ ６３

［付録 7］　研究機関の認定及び研究歴の算出基準に関する内規･･････････････････ ６４
［付録 8］　論文提出による学位授与申請者の外国語試験に関する内規･････････････ ６５
［付録 9］　学位論文審査方法等の取扱いに関する申合せ･･････････････････････ ６７

1　産業医科大学大学院の概要

1-1. 教育研究上の目的 ･･ 04

1-2. 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー） ･･････････････････････････････････････ 04

1-3. 学位論文審査基準 ･･ 04

1-5. 医学専攻の構成 ･･ 05

1-4. 医学専攻の教育課程 ･･ 05

［付録 1］　医学研究科を構成する講座等 ･･ 06

［付録 2］　履修モデル図 ･･ 07

［付録 3］　学位取得までのスケジュール ･･ 08

1-1. 教育研究上の目的

［教育研究上の目的］（大学院医学研究科）

産業医科大学の目的及び使命に基づき、医学及び看護学その他の医療保健技術に関する学問についての学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、文化の進展並びに労働環境と健康に関する分野における医学及び看護学その他の医療保健技術に関する学問の進展と社会福祉の向上に寄与することを目的とします。また、本研究科全体での英語化を進め、国際的に通用するグローバルな能力を合わせ持った人材を養成します。

［教育研究上の目的］（医学専攻）

本学の特徴である産業保健マインドを基本にして、本学の持つ産業医学専門家や各診療科の教員リソースを活用したカリキュラムにより、研究者としても実務者としてもリーダーたる人材を養成します。すなわち、限られた専門領域のみでなく、予防医学の領域まで熟知した産業保健マインドに加え、更なる専門領域における高度な能力を持った人材を養成します。

1-2. 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

医学専攻では、本研究科の規定する修業年限以上在学し、次に示す高度な学識及び研究能力を有するとともに、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、博士論文審査及び最終試験に合格した者に博士（医学）の学位を授与します。

1　産業医学を含む医学分野の高度で幅広い専門的知識を修得している。
2　学術的意義、新規性、創造性等を有する研究について、倫理性を備えて企画・推進・実施できる。
3　高度な普遍性を持つ研究成果を論理的に説明できる。
4　実践的な教育の機会や学術発表を通じて、産業医学を含む医学分野における学識を教授できる。
5　国際社会に通用するグローバルな能力を有する。
6　生涯にわたり真理を追究する探究心を持ち、研究分野の発展に寄与・貢献できる。

1-3. 学位論文審査基準

産業医科大学大学院医学研究科（医学専攻、産業衛生学専攻、看護学専攻）における学位論文審査は、産業医科大学大学院学則、産業医科大学学位規程、産業医科大学大学院医学研究科医学専攻学位審査内規、産業医科大学大学院医学研究科産業衛生学専攻学位審査内規、産業医科大学大学院医学研究科看護学専攻学位審査内規、並びに、医学研究科各専攻における学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、博士及び修士の学位論文審査を厳正かつ公正に以下のとおり行う。

1．学位論文審査体制

各専攻審査委員会（主査 1 名、副査 2 名以上）が、学位論文審査基準に基づき、公開審査会において論文の審査及び最終試験（試問）を行い、論文審査結果の要旨及び最終試験（試問）結果の要旨を作成する。学位審査の最終的な合否判定は、各専攻委員会、大学院医学研究科委員会を経て、学長が最終決定を行う。

2．学位論文審査基準

1) 博士論文（医学専攻、産業衛生学専攻）

① 研究目的の新規性、創造性

産業医学を含む医学分野または産業衛生学分野の高度で幅広い専門的知識に基づき、新規性、創造性を有する研究である。

② 研究方法・倫理観

研究計画、研究方法が適切な論証性・倫理性を備えて企画・推進・実施されている。

③ 結果の提示と考察

普遍性を持つ研究成果、考察の展開を論理的に説明でき、結論が合理的に導きだされている。また、論文内容の発表と質疑に対する応答が論理的かつ明解である。

④ 学術的、社会的意義、今後の発展性

研究の学術的あるいは社会的位置付けが明示されている。産業医学を含む医学分野または産業衛生学分野における学識を教授し、研究の発展に寄与・貢献できる。国際社会に通用する可能性を有する。

2) 修士論文（産業衛生学専攻、看護学専攻）

① 研究目的の適切性

産業衛生学分野または看護学分野の基礎的知識及び専門に関連する知識に基づき、適切性を有する研究である。

② 研究方法・倫理観

研究計画、研究方法が適切な論証性・倫理性を備えて推進・実施されている。

③ 結果の提示と考察

研究成果、考察が論理的に説明されている。

④ 学術的、社会的意義

研究の学術的あるいは社会的位置付けが明示され、研究の発展に寄与・貢献できる。

1-4. 医学専攻の構成

医学専攻を構成する講座等数は 39 講座あり、それぞれが特論、演習、実習、論文指導を担当します（［付録 1］　医学研究科を構成する講座等　参照）。医学部だけでなく研究所の教員も指導に携わり、医学における各分野を網羅し、更に専門領域に踏み込むために必要十分な数を満たしています。専門領域については、臨床系講座に専門医養成講座を設け、演習及び実習を行います。学生は、所属する講座等が行う特論等は必修となりますが、他の講座等が行っている関連する領域としての特論等も広く履修することができます。

また、社会人の修学に配慮し、昼夜開講制を取り社会人大学院生を受け入れています。授業は昼間の時間帯以外に、18 時以降の夜間にも開講しており、いずれの時間帯でも履修できます。

1-5. 医学専攻の教育課程

医学専攻の修業年限は 4 年を標準として、講座等に所属し指導教授の下で専門的な研究能力を修得します（［付録 2］　履修モデル図、［付録 3］　学位取得までのスケジュール　参照）。学生は所属する講座等が行う専門分野の授業を受けるほか、共通の基盤的な科目及び産業医学に関連した指定授業科目を履修します。所定の単位を修得し、学位論文を作成し論文の審査に合格すれば、大学院修了となり博士（医学）の学位を授与されます。

［付録 1］　医学研究科を構成する講座等

大学院医学研究科

医学専攻	産業衛生学専攻	看護学専攻

医学専攻

医学部

【講座】

第１解剖学	第１内科学
第２解剖学	第２内科学
第１生理学	第３内科学
第２生理学	呼吸器内科学
生化学	神経内科学
分子生物学	精神医学
薬理学	小児科学
第１病理学	第１外科学
第２病理学	第２外科学
免疫学・寄生虫学	脳神経外科学
微生物学	整形外科学
衛生学	皮膚科学
公衆衛生学	泌尿器科学
法医学	眼科学
	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学
	産科婦人科学
	放射線科学
	麻酔科学
	リハビリテーション医学
	救急・集中治療医学

産業衛生学専攻

産業生態科学研究所

【研究室】

労働衛生工学	職業性腫瘍学
人間工学	呼吸病態学
産業保健管理学	産業保健経営学
環境疫学	産業精神保健学
職業性中毒学	健康開発科学
	作業関連疾患予防学
	放射線衛生管理学
	災害産業保健センター

医学部
【講座等】

- 医学概論
- 両立支援科学

- 産業医実務研修センター

- ＩＲ推進センター

- 高年齢労働者産業保健研究センター

看護学専攻

産業保健学部

【講座等】

産業・地域看護学	人間情報科学
作業環境計測制御学	基礎看護学
安全衛生マネジメント学	成人・老年看護学
	広域・発達看護学

［付録 2］　履修モデル図

［履修モデル］

年次	科目等 単位数（＊1）		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1	共通科目	産業医学研究基盤コース 2単位（15コマ必修）	研究指導計画											
		医学研究概論 2単位（15コマ選択必修）												
		産業医学特論 1単位（9コマ必修）												
		医学英語特別コース 1単位（9コマ選択必修）												
	専門領域科目	特論 6単位												
2		演習 6単位												
3		実習 6単位												
4		論文指導 6単位			←→		学位授与申請（＊2）・学位審査							学位授与

＊1 指定科目（産業医学関連科目）を含んだ、計36単位以上を修得すること。
＊2 学位授与申請期限：12月21日

［付録 3］　学位取得までのスケジュール

	主なスケジュール		提出書類等	様　式	提出先
1年次	4月	入学 新入生オリエンテーション 履修計画指導 受講開始 研究計画指導	研究指導計画書 （実施経過・実績報告書）	教務課所定様式	教務課
	随時	倫理審査申請 倫理審査	本学倫理審査 HP 参照	大学所定様式	
2年次	4月	研究・論文作成の経過 確認・指導	研究指導計画書 （実施経過・実績報告書）	教務課所定様式	教務課
3年次	4月	研究・論文作成の経過 確認・指導	研究指導計画書 （実施経過・実績報告書）	教務課所定様式	教務課
4年次	4月	研究・論文作成の経過 確認・指導	研究指導計画書 （実施経過・実績報告書）	教務課所定様式	教務課
	随時	論文投稿			
	6月	学位申請に係る書類提出	学位申請書 学位論文　5 部* 論文要旨　5 部* 論文目録　5 部* 参考論文　各 5 部 履歴書 単位修得見込証明書 承諾書 報告書 掲載受理証明書 学位論文に関する宣誓書 *書面及びデータで提出	様式第 1 号 様式第 2 号 様式第 3 号 様式第 4 号 様式第 5 号 様式第 6 号 未公表の場合	教務課
	随時	学位論文公開審査会			
	随時	論文審査終了報告書提出	論文審査終了報告書 学位論文審査結果要旨 最終試験結果要旨 最終試験に対する回答	様式第 9 号 様式第 10 号 様式第 11 号 様式第 12 号	教務課
	随時	合否判定			
	3月	研究指導実績報告 学位記授与式	研究指導計画書 （実施経過・実績報告書）	教務課所定様式	教務課

2　履修・研究計画

2-1. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー） ･････････････････ 10

2-2. 授業科目の概要 ･･･ 10

2-3. 講義の形態 ･･･ 11

2-4. 出席確認について ･･ 11

2-5. 研究指導の方法 ･･･ 11

2-6. 研究指導計画書の作成 ･･ 12

2-7. 長期履修制度について ･･ 12

2-8. 在学延長について ･･ 12

［付録 4］　授業科目の概要（科目の名称、講義等の内容） ･････････････････ 13

［付録 5］　令和８年度　受講希望科目調査票 ･････････････････････････････ 41

［付録 6］　研究指導計画書および記入例 ･････････････････････････････････ 49

2-1. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

医学専攻は、学生が希望する研究領域の講座等における徹底した個人指導によって、医学研究（基礎研究や臨床研究）の基盤的な専門知識と技能、ならびに、研究を企画・遂行できる能力を修得することができる内容としています。

指導には医学部の教員だけでなく産業生態科学研究所の教員も携わり、医学における各分野を網羅し、さらに、専門領域に踏み込んで研究指導にあたります。

1 「共通科目」は、医学倫理・研究倫理、研究における利益相反、疫学・統計学基礎、英語論文作成手法等の基盤的な科目である「産業医学研究基盤コース」、本学の特色である産業医精神を涵養する「産業医学特論」、各専門領域の知識を概括する「医学研究概論」、国際的に通用するコミュニケーション能力を身につけるために専門的分野の講義のすべてを英語で行う「医学英語特別コース」を設置し、必修としています。

2 「専門領域科目」は、特論、演習、実習及び論文指導の科目で構成し、学生は、自らの所属する講座等が行う特論等の科目を履修し、加えて他の講座等が行っている関連する領域の特論等の科目も広く履修できる内容としています。

3 実践的な教育の機会や学術発表指導により、自らの学識を教授する能力を身につけることができる内容としています。また、国際社会に通用するグローバルな能力（英語によるコミュニケーション力、プレゼンテーション力、文献読解力ならびに英文作成力）を修得することを目標としています。

4 「専門医養成講座」は、専門医に必要となる知識を修得することができる内容としています。

5 こうした系統的な教育を行う一方で、がん患者の社会生活面での支援等の能力を有し、将来的にはがんセンター等の病院のがん診療体制にも参画し、チーム医療を指導しうる人材を養成する「がん専門医師養成コース（がん治療と就労の両立支援医師養成コース、がんゲノム医療重点コース）」を設置し、「がん専門医師養成科目」を開講しています。「がん専門医師養成科目」の履修により、高度な臨床能力を修得することができます。なお、「がん専門医師養成科目」はすべての学生が履修することが可能です。

2-2. 授業科目の概要

医学専攻の授業科目は、共通科目と専門領域科目から構成されています。（［付録４］を参照）

◎ 共通科目

医学専攻の各専門領域に共通する大学院博士課程として必要な高度な専門的知識を修得するために設定しています。オンラインで開講し、1 年次での履修をすすめています。講義日程が変更された場合は、Microsoft Teams の掲示板にてお知らせします。

◎ 専門領域科目

各講座等に特色のある、特論（45 コマ）、演習（45 コマ）、実習（90 コマ）、論文指導（適宜）を設定しています。１年～４年次の間で開講されますので、所属の研究指導教授と相談の上、受講してください。がん専門医師養成コースの履修者は、がん専門医師養成科目も受講してください。

2-3. 講義の形態

◎ 共通科目（学内の講師（教員）による大学院講義）

社会人大学院生にも配慮し、６限（18：00～19：30）にオンライン（Microsoft Teams を使用）で実施します。講義資料は、Microsoft Teams からダウンロードできます。

講義日等の変更があった場合も、同様に Microsoft Teams および学内掲示板でお知らせします。

◎ 専門領域科目

各自の履修選択科目の担当教員と調整のうえ、受講してください。

◎ 非常勤講師等による大学院講義

人的交流も兼ねて対面での実施を推奨していますが、場合により対面とＷＥＢのハイブリッド、等の方法で実施します。詳細については、主催者からの案内を参照してください。

2-4. 出席確認について

オンライン講義での出席確認は、Google フォーム及び Microsoft Teams への入退室時刻で行います。

◎ Google フォームによる確認方法は、オンライン講義中に担当教員が QR コードを提示しますので、受講者はそれを読取り、必要事項（学生番号、氏名等）を記入のうえ、送信してください。QR コードが提示されてから 10 分以内の回答を出席として取扱います。

◎ Microsoft Teams は「学生向け Teams マニュアル」を参照し、**学校で配付している専用の Microsoft アカウント**でログインしてください。受講者の入室時刻及び退室時刻を教務課で確認します。講義開始後 10 分を経過しての入室は出席として認めません。

講義及び演習については３分の２以上、実習については４分の３以上の出席により、履修の評価を受けることができます。

2-5. 研究指導の方法

立案した研究を円滑に遂行し、標準修業年限内（４年間）で確実に成果を得て、学位取得に繋げるために、指導教授等との相談・指導の下に「研究指導計画書」を毎年構築してください。（［付録６］参照））

指導教授等と研究の進捗状況を確認すると共に、定期的かつ個別的に十分な研究指導を受けてください。

個別の研究内容と指導方法などについては、「2-2. 授業科目の概要」や、大学院ホームページ「授業科目体系・授業科目・授業の方法・内容・年間授業計画」（URL: https://www.uoeh-u.ac.jp/University/College/kokai/_9326.html）も適宜参照してください。

2-6. 研究指導計画書の作成

標準修業年限内（４年間）での修了を目指すため、カリキュラム・ポリシーに沿って、毎年度「研究指導計画書（実施経過・実績報告書）」（４月１日現在）を作成し、指導教授と内容を確認のうえ、専攻委員長の定める期日までに必ず提出してください。

その際、毎年度ごとにマイルストーンを設定して研究計画を構築すると共に、年度ごとの研究の進捗状況を記載し、場合によっては研究指導計画（年次目標、研究課題、内容など）の修正等を、指導教授と十分に相談のうえ、記載してください。

研究指導計画書の作成にあたっては、留意事項をよく読み、研究指導計画どおりに研究が進んでいるか（進めることができるか）、研究計画や研究内容に問題はないか（研究成果は着実に出ているか）等、指導教授から確実に指導を受けてください。（［付録６］を参照）

2-7. 長期履修制度について

長期履修制度とは、職業を有している等の事情により、標準修業年限で修了することが困難と認められる者について、長期履修学生として標準修業年限を超えて計画的に履修することを可能とする制度です。申請にあたっては、長期履修期間中の履修や研究方法等について、あらかじめ指導教員と十分に相談してください。

<u>申請期限：３年次 12 月末日</u>

2-8. 在学延長について

学位論文が計画どおりに作成できなかった等により、４年間の修業年限を超える場合は、在学期間を延長することができます（最大６年間）。

在学延長する場合は、速やかに在学延長願を提出してください（様式は教務課にあります）。

［付録４］授業科目の概要

授　業　科　目　の　概　要 （大学院医学研究科医学専攻）		
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
共通科目	産業医学研究基盤コース	大学院生として知っておくべき医学研究の基盤的事項につき、単なる講義のみでなく、見学や討論、演習を積極的に取り入れたカリキュラムとする。具体的な内容は、学院の使命、②医学研究法、③医学倫理・研究倫理、④トランスレーショナルリサーチ、⑤研究デザイン、⑥統計学 １、⑦トランスレーショナルリサーチ、⑧研究における利益相反、⑨統計学 ２、⑩英語論文作成手法、⑪論文投稿・発表の倫理、⑫研究用微生物の取り扱い、⑬組織形態学観察法についての基礎知識、⑭動物実験を行う上での基礎知識、⑮RIを使ったバイオ実験および放射線取り扱いの基礎知識、である。
	医学研究概論	大学院の授業を担当するすべての講座等が協力して、本学で行われている医学研究の概要を紹介し、最新の医学研究に関する広範な知識を得るとともに、これから研究を進めるにあたって必要なリサーチマインドの熟成を図る。選択必修として全ての院生が全ての概論科目から選択できることが特徴である。単なる講義のみでなく、討論や演習を積極的に取り入れることにより、より実践的な知識の習得を目指す。 （オムニバス方式/１５回選択必修）
	産業医学特論	本学の特徴である産業医学専門家の教員リソースを活用し、産業衛生学、公衆衛生学、労働衛生工学、環境疫学、産業保健管理学、人間工学、職業性中毒学などの講座が協力して担当する。本学における産業医学研究の概要を紹介し、最新の産業医学研究に関する広範な知識を得ると同時に、いわゆる基礎医学・臨床医学・社会医学の3つの領域の関連を大学院生が有機的に理解して、今後の研究に生かしていくことを目指す。
	医学英語特別コース	大学院の修了者は国際的に通用するグローバルな能力を持つことが期待される。専門的分野の講義とディスカッションを全て英語で行うことにより、実践的な英語能力を身につける。 〈オムニバス方式/９回選択必修〉

［付録４］授業科目の概要

授　業　科　目　の　概　要 （大学院医学研究科医学専攻）		
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
専門領域科目	解剖学特論	肉眼解剖学、組織学、神経解剖学および発生学という解剖学の全般にわたり、講義とセミナーを中心として基礎知識を得るとともに、あらゆる医学の基礎となる解剖学の基本をより深く理解し、発展的に活用する能力の習得を目的とする。
	解剖学演習	抄読会、セミナーにより、解剖学全般にわたる幅広い基礎知識を習得するとともに、大学院生自ら発表・討議を行うことにより、発表および討議能力の基礎を修得する。解剖学の最新の英文原著論文を読み、抄読会で概要を説明し、問題点を批判的に討議する。この演習により、研究課題を見つけ、解決方法を考案していく力を涵養していく。
	解剖学実習	研究課題の概要を定めた後、指導教員の下で具体的な研究の進め方、実験手法、研究倫理に関する討議を行い、研究法を学習する。実際に実験を開始し、得られた結果毎に総括と次の実験方針の討議を行っていく。この過程で科学的なものの見方、考え方を深めていく。また、学会等での成果の発表を行っていくことで情報の発信能力を高めていく。
	解剖学論文指導	研究課題について研究を進め、成果が得られた場合、その結果について、指導教員とともに討議し、問題点を明らかにしていく。その結果、新しい発見にいたった場合、研究成果を原著論文とする。論文執筆を進める過程で、科学論文の構成を理解し、その作成法、留意点を学ぶ。さらに執筆論文の投稿法などについて理解を深める。
	組織学特論	講義やカンファレンスを中心として、組織学に関する基礎知識のみならず、顕微解剖学に関する最先端の情報を習得する。医学の基盤をなす組織学の基本および各種顕微鏡の基礎原理を学び、発展応用する能力の修得を目指す。
	組織学演習	抄読会、セミナーなどを通じて、組織学全般にわたる幅広い知識を実践的に習得する。また、大学院生自ら発表に参画することにより、情報分析・発信に関する能力を身につける。組織学に関連する最新の英語原著論文を読んで、発見の意義や問題点について議論する。これらを通じて研究テーマの設定やその解決方法の選択における能力の育成を目指す。
	組織学実習	指導教員の下で研究テーマの方向性を決定し、具体的な研究内容や手法などに関する議論を行なう。また、実際に研究を進める中で、結果の討議を通じて結果の解釈の仕方や科学的な考え方を習得する。得られた研究成果については適宜、学会発表を行なうことにより、プレゼンテーション能力の修得を目指す。 （オムニバス方式）
	組織学論文指導	研究テーマについて得られた成果を論文としてまとめる方法を実践的に学ぶ。実際に論文を執筆する過程において、指導教員との討議・推敲を通じて、論文の基本構成、作成法、またデータの取り扱いや実験に関する倫理等を実践的に習得し、研究成果を論文形式で情報発信する能力の修得を目指す。
	法医学特論	損傷論、法医病理学、法医中毒学、薬毒物分析学、個人識別および医事法制などの法医学全般に関する基礎的な内容について、講義やカンファレンスを通じて知識を得る。そして、死因診断に必要な基礎知識を習得するとともに、死体検案における実践的知識の習得を目指す。
	法医学演習	学会、研究会および症例検討会などへ積極的に参加・発表を行い、死因診断・死体検案に必要な知識を幅広く習得する。そして、疑問点が生じた場合には文献検索や実験的手法などを通じて明らかにしていくとともに、その過程で研究テーマを見出し解決していくことを目指す。

［付録４］授業科目の概要

授　業　科　目　の　概　要 （大学院医学研究科医学専攻）		
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
専門領域科目	法医学実習	研究テーマを遂行するにあたって必要な実験手法・研究倫理などを指導教員とともに考えて研究計画の立案を行ったうえで、実際に研究を行う。得られた研究結果を解析して指導教員と議論し、最終的な結論を導き出す。これらを通じて、研究者としてのリサーチマインドの習得を目指すとともに、法医学における基礎研究の重要性について理解する。
	法医学論文指導	研究から得られた結論に基づき、論文作成を行う。論文の作成に関しては、文章の構成、論文の執筆および表の作成などを指導教員のもとで行い、論文投稿を行う。同時に法医学の実際事例の症例報告についても、積極的に執筆し投稿する。これらを通じて、研究論文や症例報告の作成方法や投稿方法の習得を目指す。
	法医認定医養成講座	司法解剖に立ち会い、実際に執刀を行うことにより死体解剖資格認定を習得する。さらに、損傷論、法医病理学、法医中毒学、薬毒物分析学、個人識別および医事法制などに関する専門的な知識の習得と、死体検案や司法解剖などを法医実務を実践して多数の症例を経験することにより、法医認定医の取得を目指す。
	生化学特論	生化学のうち、とくに学生の興味が高い腫瘍生化学、腫瘍分子生化学を中心に、講義やカンファレンスを軸として、基礎から最新知識を得ることが目的。これらの知識を基にさらに発展応用できる能力の習得が次の目標となる。即ちどんな研究を志すのか？自己で決定できる能力の獲得が最終目標となる。
	生化学演習	抄読会、カンファレンス、セミナー、研究会などの多彩な機会を通して、医科学全般にわたる幅広い基礎知識を実践的に習得するとともに、大学院生自ら発表・議論を行うことにより、プレゼンテーションおよびディスカッション能力の基礎を身につける。例えば、生化学に関する最新の英文原著論文を読んで、抄読会で紹介するとともに問題点を議論する。これらを通じて、自ら研究テーマを見出し、解決していく能力の獲得を目指す。
	生化学実習	自分の研究テーマの概要が決まったのち、指導教員の下で具体的な研究の方向性や手技・手法、研究倫理などに関する議論を行い、研究の組み立て方を学ぶ。実際に研究を開始した後は、得られた結果に対してその解釈の方法と次の実験計画立案が出来る能力を養成する。ある程度の成果を得たあとは、学会発表等を目標に専門的プレゼンテーション能力を身につける。論文発表を完遂する。
	生化学論文指導	自分の研究テーマについて結果が得られたら、指導教員のもと統計学的手法も用いて実験結果について討論し、問題点を明らかにする。このような過程を繰り返して研究のまとめ方を学ぶ。論文執筆においては、実際に論文を書きながら、指導教員との議論、繰り返しの修正過程などの経験を通して、論文の構造・構成、記載法、さらに論文投稿・発表の倫理などを系統的かつ実践的に修得する。
	腫瘍生化学特論	本科目は、がんに関する最先端の専門知識および高度な研究能力の習得に加え、チーム医療のリーダーとしての能力や、がん患者の社会生活支援の能力も有し、将来的に病院のがん診療体制の中で活躍できる人材を養成することを目的とした「がん専門医師養成科目」である。 細胞のがん化のメカニズムについて、がんの発生・増殖・進展の各過程で役割を果たす様々な遺伝子や分子を中心に、生化学的、分子生物学的に解説する。
	がんゲノム情報解析Ⅰ	本科目は、がんに関する最先端の専門知識および高度な研究能力の習得に加え、チーム医療のリーダーとしての能力や、がん患者の社会生活支援の能力も有し、将来的に病院のがん診療体制の中で活躍できる人材を養成することを目的とした「がん専門医師養成科目」である。 がん専門医に必要な、癌の成り立ちに関する最新知識について解説するともに、がんゲノム情報解析の基本的概念について解説する。

［付録４］授業科目の概要

授　業　科　目　の　概　要 （大学院医学研究科医学専攻）		
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
専門領域科目	分子生物学特論	遺伝子組み換え技術などの分子生物学手法の発展に伴い、生命現象を分子レベルで理解できるようになりつつある。本講義では、遺伝子の本体であるDNA の構造、突然変異と修復、遺伝子の組換えなどについて学び、遺伝子の異常で発生するがん細胞の特性（増殖、血管新生、浸潤・転移）のメカニズムを説明できることを目標とする。
	分子生物学演習	遺伝子異常でおこるがんの分子メカニズムを理解し、説明できる能力を身につける。具体的には、細胞の増殖シグナル、細胞分裂や細胞周期、血管新生、浸潤・転移などに関する最新の分子メカニズムを論文を精読し理解した上で紹介させる。その報告から、がんの新たな診断・治療への発展性と問題点および今後の展望を出席者全員で議論することにより討論する力を養う。
	分子生物学実習	分子生物学手法がどのように医学に貢献しているかを理解し、説明できる能力を身につける。具体的には、遺伝子の組換え操作を行い、正常および異常な蛋白質の強制発現、あるいは蛋白質発現の強制抑制を行う技術を実際の実験を通して習得させる。これらの成果とがんの生物学的特性との関連を考察し、がんを克服する方法を考案させる。その内容を発表することで、プレゼンテーション能力を養わせる。
	分子生物学 論文指導	現在のがん診断・治療で何が問題となっているか熟知したうえで、分子レベルで何を明らかにできるかを指導教官と議論し研究テーマを決める。論文作成においては、事実の記載には証拠を、意見の記載には根拠が必要であることを理解させる。証拠と根拠に対しては仮説の立て方、実験方法、結果の解釈と考察の過程を通して学習させる。また、図表の作成方法や参考文献の利用方法などを含め、論文作成の手順を身につけさせる。
	腫瘍分子生物学	本科目は、がんに関する最先端の専門知識および高度な研究能力の習得に加え、チーム医療のリーダーとしての能力や、がん患者の社会生活支援の能力も有し、将来的に病院のがん診療体制の中で活躍できる人材を養成することを目的とした「がん専門医師養成科目」である。 発がんの分子機構の理解に重要ながん遺伝子とがん抑制遺伝子の種類および機能的役割について解説する。さらに、癌と細胞増殖因子、がんウィルスの発現についても解説する。
	免疫学特論	免疫学全般における基礎知識の確認と、日々アップデートされる新情報を、カンファレンス・ミニセミナーを中心に議論していく。これらの議論から、基盤となる免疫反応・システムを総合的に理解する能力を習得し、基礎実験への応用に繋げていくことを目標とする。
	免疫学演習	カンファレンス・ミニセミナーを中心に議論している免疫学的事象を、大学院生の研究テーマなどと照らし合わせ、大学院生自身でそれらを他の人に伝えるためのプレゼンテーションを行う。そのプレゼンテーションの場で、深い議論を交わし、将来の学会などの口頭発表などに繋げられるようにする。
	免疫学実習	講義・演習で議論となったテーマについて、大学院生が問題点を考え、その解決のための実験計画を立て、必要な手技手法を会得する。その過程で、新たな研究テーマの創造ができるようになることが目標である。 （オムニバス方式）
	免疫学論文指導	大学院生の研究テーマから得られた結果をもとに、ストーリー展開を行い、英語論文を作成し、国際誌に投稿する。また国際誌のレヴュアーとのやり取りの中で、サイエンスに関する議論を英語でできる技能を習得する。

［付録４］授業科目の概要

授　業　科　目　の　概　要 （大学院医学研究科医学専攻）		
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
専門領域科目	腫瘍免疫学	本科目は、がんに関する最先端の専門知識および高度な研究能力の習得に加え、チーム医療のリーダーとしての能力や、がん患者の社会生活支援の能力も有し、将来的に病院のがん診療体制の中で活躍できる人材を養成することを目的とした「がん専門医師養成科目」である。 腫瘍と宿主免疫、すなわちがん患者に内在する免疫システム、自然免疫システム、獲得免疫システムの概要を解説するとともに、がんワクチンや免疫細胞療法について解説する。
	病理形態学特論	疾患特異的組織形態変化について、各臓器での疾患の基礎知識及び実践応用のための経験を蓄積する。すなわち、全ての医学の基盤となっている病理学的知識を学ぶことで、医学の各分野に応用出来る能力を習得することを目指す。
	病理形態学演習	実際の病理診断症例に関するカンファレンスや、病理形態学的研究を基にしたセミナー、研究会等を通じて病理学全般にわたる基礎知識の実践的習得をめざす。また、大学院生自ら発表を行い議論に参加することで、発表や質疑応答のスキルを習得させることや、論文を渉猟して、自分の研究テーマを見つけ、問題を解決する能力を習得させることを目指す。
	病理形態学実習	自分の研究テーマが決定したのち、指導教員の下で具体的な研究の方向性や研究方法、研究倫理に関して検討、議論し、実際の研究を行っていく。 （オムニバス方式）
	病理形態学 論文指導	研究結果が得られたら、指導教員の下で、実験結果について討論し、問題点を明らかにし、論文執筆の際には指導してもらいながら、論文を執筆する。その際指導教員と討論し、必要があればデータを追加するための追加実験を行ったり、論文修正を通じて論文が受理されるまでの過程を理解する。
	病理専門医 養成講座Ⅱ	病理専門医には、広い医学的知識に裏打ちされた病理組織の理解が求められる。すなわち、全身諸臓器に起こる疾患の特徴的組織像と、類似組織の相違を区別し、正しい診断に至ることの出来る能力が必要である。実際の診断を通じて実践していくことが求められる。
	腫瘍病理学	本科目は、がんに関する最先端の専門知識および高度な研究能力の習得に加え、チーム医療のリーダーとしての能力や、がん患者の社会生活支援の能力も有し、将来的に病院のがん診療体制の中で活躍できる人材を養成することを目的とした「がん専門医師養成科目」である。 腫瘍細胞形態等の病理診断の基本を解説するとともに、がん病理診断の実例を題材として、悪性度や浸潤、転移がどのように診断されるのか、その情報が臨床の現場でどのように活かされるのか解説する。
	神経生理学特論	神経生理学・神経内分泌の側面から生体の恒常性維持機構の解明を目指す。さらに、職場での適応・不適応に関する生体反応、特にストレス反応についての脳内機序の解明を目指す。そのための手法として、生理活性物質および神経ペプチドの生理作用の検討、電気生理学的手法を用いたシナプスレベルでの検討、遺伝子改変動物を用いた研究等を学ぶ。研究目的を達するために必要となる研究デザインや手技の応用、結果の分析に関しての能力も養う。
	神経生理学演習	研究テーマに関わる最新の情報を収集するため、自ら最新の英語文献を検索し内容吟味を行い、その情報をもとに研究に応用していく。収集した情報は、抄読会、カンファレンス等で発表を行い、議論を行うことで、さらに深いものとする。また、研究会や学会での発表を積極的に行っていく。これらの準備から実践を通じプレゼンテーションおよびディスカッション能力を修得する。

［付録４］授業科目の概要

授　業　科　目　の　概　要 （大学院医学研究科医学専攻）		
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
専門領域科目	神経生理学実習	研究テーマの概要が決まれば、その目的や探求すべき課題に向かって、指導教員の下で具体的な研究の方向性や手技・手法、研究倫理などに関する議論を行いながら実践していく。実験手技（主に電気生理学的手法と分子生物学的手法を組み合わせた手技）に関しては、指導を受けた後には独自に実行できるレベルまで修得できるようにする。実験により得られたデータは統計的手法により分析を行い、科学的な意義を検証する。
	神経生理学 論文指導	論文作成に対する基本的な過程を学ぶ。具体的には、図表の作成方法、実験方法の記載、結果の検討および記述、既存の研究結果との比較検討、論文で用いる英語表現などである。これらの過程を遂行するにあたり、指導教員との綿密な打ち合わせを繰り返しながら精度の高い論文を仕上げていく。これらの経験は、可能な限り多く繰り返すことにより定着させる。
	細胞生理学特論	シグナル伝達素子の膜輸送や発現調節など細胞生理学全般にわたり、講義及び実験検討会を中心として基礎知識を得ると同時に、研究に応用するための経験を蓄積する。すなわち、あらゆる生命現象の基礎となっている細胞生理学の基本を学び、それらを発展応用する能力の習得をする事が目的である。
	細胞生理学演習	抄読会、研究討論会、セミナー、研究会などの多彩な機会を通して、細胞生理学全般にわたる幅広い基礎知識を実践的に習得するとともに、大学院生自ら発表・議論を行うことにより、プレゼンテーション及びディスカッション能力の基礎を身につける。抄読会では、細胞生理学に関連する最新の英文原著論文を読んで紹介するとともに、問題点を議論する。これらを通じて、自ら研究テーマを見出し、解決していく能力の獲得を目指す。
	細胞生理学実習	自分の研究テーマの概要が決まったのち、指導教員の下で種々の実験手技・手法を学び、具体的な研究の方向性及び研究倫理などに関する議論を行い、研究の組み立てを学ぶ。指導を受けながら実際に研究を開始し、得られた結果に対してその都度議論する。研究結果の討論などを通して、科学的なものの考え方及び具体的に研究の進め方を学ぶ。学会発表等においては、発表のまとめ方を含め、より高度のプレゼンテーション能力を身につける。
	細胞生理学 論文指導	自分の研究テーマについて結果が得られたら、指導教員のもと統計学的手法も用いて実験結果について討論し、問題点を明らかにする。このような過程を繰り返して研究のまとめ方を学ぶ。論文執筆においては、実際に論文を書きながら、指導教員との議論、繰り返しの修正過程などの経験を通して、論文の構造・構成、記載法、さらに論文投稿・発表の倫理などを系統的かつ実践的に修得する。
	薬理学特論	薬物動態特論、薬物受容体特論、生物活性物質特論、薬物活性理論など薬理学分野の全般にわたり、講義やセミナーを中心として、基礎知識を習得する。すなわち、臨床での薬物治療における薬の科学的素養を身につけるための基本を学び、薬物や生理活性物質が生体のどの部位にどのように作用して生体機能を修飾するかを学習することを目指す。
	薬理学演習	論文の抄読会、研究セミナー、薬理学会などの多くの機会を通して、薬理学全般にわたる科学的基礎知識を習得するとともに演習する。大学院生は、これらの機会を通じて自ら発表する能力を磨き、議論に参加し討論する論理的思考力を身につける。

［付録４］授業科目の概要

授　業　科　目　の　概　要 （大学院医学研究科医学専攻）		
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
専門領域科目	薬理学実習	研究テーマに従って、指導教員の下で実際の研究の方向性や実験手法を十分に議論し、研究概要の計画を立てる。その計画に従って、指導教員の技術指導を受けて、研究を進めて行く。得られた研究成果を科学的に客観的に評価し、議論する。その過程を通して科学的リサーチマインドを養い、研究の困難な壁に遭遇しても、いかにしてその壁を乗り越えて行くかを訓練する。また、得られた成果を学会発表して、優れた研究発表能力を養う。
	薬理学論文指導	研究結果の統計処理を行い、その科学的有意性の下に研究成果を整理しまとめ、論文作成を行う。論文執筆においては指導教員により、論文作成の指導を受け、大学院生自らが論文を書く能力が身につくように議論と修正を繰り返し、それらの過程を通して論文作成能力を養う。さらに論文投稿や学会発表における倫理や研究者としてのマナーを実践的に修得する。
	衛生学特論	産業衛生学特論は狭義の産業衛生学の範囲にとどまらず、産業中毒、環境保健、環境中毒、食品衛生、母子保健等、衛生学すべての範囲を対象に特論講義を行う。教科書はEncyclopedia of Environmental Health (Nriagu J. Kawamoto T. et al, Elsevier, 2011) を使用し、産業衛生学に関する幅広く、かつ深い内容を習得する。
	衛生学演習	産業現場における調査、エコチル調査さらには大規模就業調査のデータや実験室での分析データを統計学的に解析して、その結果を現場や一般社会に還元する演習を行う。
	衛生学実習	産業衛生学実習は、産業現場と実験室の有機的結合を目的としている。すなわち、産業現場での実態調査・環境測定・生体試料採取さらには一般人を対象とした職業調査や生体試料採取をする一方で、実験室では生体試料中の化学物質及び代謝物のHPLC・GC-MS・ LC-MS等を用いた同定、定量、化学物質に対する特異的抗体の測定、酵素活性測定、PCR法、DNA-sequenceを用いた遺伝子多型の同定、Expression-array (cDNA array)やRT-PCR法を用いたmRNA発現量測定、Proteomics技術を用いた化学物質―タンパク質付加体の解析等を行い、労働と健康について包括的に理解する。 （オムニバス方式）
	衛生学論文指導	自分の研究テーマについて結果が得られたら、指導教員の下統計学的手法も用いて実験結果について討論し、問題点を明らかにする。このような過程を繰り返して研究のまとめ方を学ぶ。論文執筆においては、実際に論文を書きながら、指導教員との議論、繰り返しの修正過程などの経験を通して、論文の構造・構成、記載法、さらに論文投稿・発表の倫理などを系統的かつ実践的に修得する。
	労働衛生工学特論	作業環境管理を実施するにあたって必要な化学物質や物理因子の同定、管理濃度など有害物質の環境基準の作成、作業環境の測定と評価の手法、環境改善のための工学的対策など労働衛生工学について、講義やカンファレンスを中心として、基礎知識を得ると同時に実践応用するための経験を蓄積する。
	労働衛生工学演習	抄読会、カンファレンス、セミナー、研究会などの多彩な機会を通して、労働衛生工学だけでなく有害因子の暴露を受けた生体の健康影響を中心に医学的な知識を習得するともに、大学院生自ら発表・議論を行うことにより、プレゼンテーションおよびディスカッション能力の基礎を身につける。例えば、関連する最新の英文原著論文を読んで、抄読会で紹介するとともに問題点を議論する。これらを通じて、自ら研究テーマを見出し、解決していく能力の獲得を目指す。

［付録４］授業科目の概要

授　業　科　目　の　概　要 （大学院医学研究科医学専攻）		
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
専門領域科目	労働衛生工学実習	自分の研究テーマの概要が決まったのち、指導教員の下で具体的な研究の方向性や手技・手法、研究倫理などに関する議論を行い、研究の組み立てを学ぶ。指導を受けながら実際に研究を開始し、得られた結果に対しては毎週の検討会で発表し、議論する。研究結果の討論などを通して、科学的なものの考え方、リサーチマインドを理解する。学会発表等においては、発表のまとめ方を含め、より高度のプレゼンテーション能力を身につける。
	労働衛生工学論文指導	自分の研究テーマについて結果が得られたら、指導教員のもと実験結果について討論し、問題点を明らかにする。このような過程を繰り返して研究のまとめ方を学ぶ。論文執筆においては、実際に論文を書きながら、指導教員との議論、繰り返しの修正過程などの経験を通して、論文の構造・構成、記載法、さらに論文投稿・発表の倫理などを系統的かつ実践的に修得する。
	環境衛生化学特論	本科目は、がんに関する最先端の専門知識および高度な研究能力の習得に加え、チーム医療のリーダーとしての能力や、がん患者の社会生活支援の能力も有し、将来的に病院のがん診療体制の中で活躍できる人材を養成することを目的とした「がん専門医師養成科目」である。化学物質による発癌の過程と変異原性試験について事例を示して解説する。
	環境疫学特論	職場の環境問題からグローバルヘルス、さらに地球環境による健康影響など広範なスペクトル上に様々な人の集団の健康問題があることを認識し、課題を抽出し、客観的な評価を加え、対策を立案することを最終目的とする。例えば国内外のフィールドで起きる特定の職業病・職業関連疾患に着目し、その実態記述や因果関係評価に係る疫学的研究手法につき、様々な実例を知り、方法論を習得し、実践応用できるようにする。
	環境疫学演習	研究室で実施する定期的な抄読会・研究会において輪番制で課題を担当し、疫学および周辺医学領域全般にわたる幅広い知識を習得しながら、プレゼンテーションとディスカッション、批判能力を高める。実施中の多地点国際遠隔講義や外国講師によるセミナーにおいて討議・グループワークによる発表に積極的に加わることで知識の幅を広げ、学際的な連携方法を身につける。
	環境疫学実習	取り組むべき課題を確定した後、同課題について専門的な知識を深めるため、関連論文の知見を俯瞰・整理し、問題点や不足している点を見極め、自らの貢献分を予測しレポートにまとめる。国内外の学会で途中経過に関する報告を行う。同時に関連周辺領域について高評価のある国際学術誌の動向にも注意を払い、幅広い科学的素養や英語によるディスカッションスキルを身につける。
	環境疫学論文指導	論文テーマとしては職場環境にはじまり、グローバルヘルス、地球環境による健康影響にわたる幅広いスペクトルを見渡し、複数の候補課題について科学的意義や実現可能性、社会に与えるインパクト等につき指導教員とのディスカッションを通じ取り組むべき課題を選定する。妥当な研究計画を企画立案し、フィールドでデータ収集と解析を実行する。データをまとめ論文化を図る段階では、妥当かつ明瞭な論理を構築した上で得られた知見をアピールできる論文に仕上げていく。そのための試行錯誤を経験する。
	環境産業疫学特論	本科目は、がんに関する最先端の専門知識および高度な研究能力の習得に加え、チーム医療のリーダーとしての能力や、がん患者の社会生活支援の能力も有し、将来的に病院のがん診療体制の中で活躍できる人材を養成することを目的とした「がん専門医師養成科目」である。 職業に起因する悪性腫瘍の実例を示し、疫学の研究手法により解説する。

［付録４］授業科目の概要

授　業　科　目　の　概　要 （大学院医学研究科医学専攻）		
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
専門領域科目	集団健診論	本科目は、がんに関する最先端の専門知識および高度な研究能力の習得に加え、チーム医療のリーダーとしての能力や、がん患者の社会生活支援の能力も有し、将来的に病院のがん診療体制の中で活躍できる人材を養成することを目的とした「がん専門医師養成科目」である。 国内外で行われる集団健診の実例とその有効性・問題点を解説するとともに、集団健診における疫学の基本、疫学研究の方法論を解説する。
	公衆衛生学特論	目標はわが国の公衆衛生の現状と課題、それに対処するための方法論についての知識を修得することである。まず現在わが国が直面する公衆衛生課題について講義やカンファレンス等を通じて学ぶ。そしてそれらに対処するために当教室が研究テーマとして取り組んでいるヘルスサービスリサーチ（ＤＰＣを筆頭に保険者が地方自治体がも保健データ等の医療政策研究）や健康影響予測評価による政策策定支援等の最新の動向について学び知識を習得する。
	公衆衛生学演習	目標は学術的かつ政策的な議論を自身で展開できるようになることと、各大学院生の研究テーマを決定することである。演習の機会としては抄読会、カンファレンス、セミナー、学内外で開催される勉強会や学術集会等への参加に加えて、行政が主催する委員会等にオブザーバー等として参加し、教員指導のもと実地で学術的、政策的な議論の展開方法を身につける。またこの取り組みのなかで研究テーマを絞り込んでいく。
	公衆衛生学実習	目標は学位論文につながる研究を企画立案し、実行することである。各院生の研究テーマが決定したところで、教員指導のもと具体的な研究計画を立案し、実行する。その際には倫理的配慮等に関する基準や具体的手続き方法についても実地を通して学ぶ。 （オムニバス方式）
	公衆衛生学 論文指導	目標はインターナショナル・ジャーナルにアクセプトされる原著論文を完成させることである。各大学院生が選定した研究テーマについて教員指導のもと論文化を前提としたデータ解析を行い、同時に既存の研究では明らかになってない事項で当該研究が新規性をもって報告できる内容を特定し、解析によって得られた結果についてディスカッションを重ねて英文原著論文の完成させる。
	計量分析疫学特論	本科目は、がんに関する最先端の専門知識および高度な研究能力の習得に加え、チーム医療のリーダーとしての能力や、がん患者の社会生活支援の能力も有し、将来的に病院のがん診療体制の中で活躍できる人材を養成することを目的とした「がん専門医師養成科目」である。 がん治療に関する臨床研究・治験等に必要な臨床疫学、医療統計学の理論と実際を紹介し、留意すべき倫理的問題について解説する。
	寄生虫学特論	寄生虫学は守備範囲が広く、研究者によって内容が異なるが、本科目では寄生原虫病学、寄生蠕虫病学および衛生動物学を対象とする。基礎的な学力を涵養することを目的とし、講義および論文の講読を中心に授業を進める。国内ではみられない疾患や、疾患に関連した生物に関する内容が多くを占めるため、将来熱帯地方を中心に海外で活躍を希望する大学院生にとっては興味ある内容と思われる。
	寄生虫学演習	大学院生が自らテーマを選び、それに関連した論文を少なくとも5編以上抄読し、まとめ、発表を行う。発表の際は関連分野の複数の教員との討論を予定している。英語論文に親しむことは当然として、データの解釈方法やプレゼンテーションの仕方を学ぶ。さらには、討論を通じてコミュニケーション能力の涵養を目指す。

［付録４］授業科目の概要

授　業　科　目　の　概　要 （大学院医学研究科医学専攻）		
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
専門領域科目	寄生虫学実習	研究を遂行するに際し多くの実験手技を使いこなす必要がある。特に自らの研究テーマに関連した実験手技には熟練することが必須である。動物実験手技、細胞培養法、タンパク質の取り扱い、遺伝子の取り扱い、生物活性物質の測定等々、マンツーマンで指導を行う。これに加え寄生虫そのものの取り扱い飼育方法も学ばねばならない。以上を通じ、独力で研究を遂行できるような能力を身につけてほしい。 （オムニバス方式）
	寄生虫学論文指導	実験計画、データの解析、統計学的処理、提示方法等々について指導教員と詳細な打ち合わせや討論をおこなう。論文作成のほかに、学会に於ける口頭発表も体験できるよう配慮する。最終的に英文論文を作成し、論文審査委員との意見交換を行い、雑誌に論文が掲載されるまでの流れを体験できるようにする。
	産業保健管理学特論	1）わが国の労働衛生法令及び政策について、その発展の歴史的な経緯、近年の変化、将来的な課題等の視点から、解説する。 2）民間企業での産業保健活動について、業種別の現状と課題を解説する。 3）労働者災害補償保険制度について、業務上疾病の認定に関する基準や近年の紛争事案等を解説する。 以上の講義を通じて、産業保健政策の概要を理解させる。
	産業保健管理学演習	1）職業性疾病、作業関連疾患、企業の安全配慮義務に関する事例を示しながら、企業等に選任された産業保健専門職として期待される役割やこれらの紛争を予防するために取るべき対策について、小集団で検討する。 2）労働衛生政策や災害補償政策に関して、わが国と欧米諸国との差異について示しながら、将来の課題と解決策について、小集団で検討する。 以上の演習を通じて、産業保健活動での課題の解決手法を体験させる。
	産業保健管理学実習	産業保健専門職による活動について、実際に現場を巡視させたり、映像資料等を閲覧させたりすることにより、労働衛生分野で未解決の課題やその解決策を推進する上での障害について認識させる。大学院生の興味に配慮しながら、取り組むべき課題の優先順位を決定する。先行研究の調査方法や科学的な思考のあり方について習熟させる。産業現場に成果を還元することを志向した産業医学の研究の推進方法を履修させる。 （オムニバス方式）
	産業保健管理学論文指導	産業現場における労働衛生分野の課題を解決するために、産業医学の基盤となる学際的な知見や手法により、産業医科大学や産業医学関連の施設や設備等を活用して研究を推進するための計画を立案させる。産業現場と共同で実施する研究については、倫理的な配慮のあり方を指導する。産学共同で技術的な開発を推進する必要がある場合には、必要な支援を行う。研究の成果を公表するとともに、産業現場で活用するための方策について検討する。
	神経内科学特論	神経内科および心療内科疾患の発症機序、病態生理および神経解剖・病理について、神経生理学、免疫学、分子生物学的研究に基づいた講義やカンファレンスを行い、各疾患の病態解明に必要な能力を習得させる。
	神経内科学演習	関連学会や班研究での研究成果の発表およびカンファレンス、セミナー、抄読会、講演・研究会などの発表等で積極的に関与し、研究テーマに対する知識の更なる向上を図り、研究領域の幅を更に広げることを目指す。研究と関連する他科の研究者との交流を積極的に行い、研究での問題点の議論を行い、研究が進展する能力を身につける。

［付録４］授業科目の概要

授　業　科　目　の　概　要 （大学院医学研究科医学専攻）		
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
専門領域科目	神経内科学実習	研究テーマを指導する教員の下で研究の概要をまず検討し、研究の目指す大まかな成果を理解する。次に研究に必要な手法や研究倫理を議論して、研究の方向性を決定する。計画した研究プランに基づいて研究を進めるが、指導教員と研究の方向性について、データごとに議論し、より良い研究の進展を目指す。研究課題でリサーチマインドについても学ぶ。研究成果は学会等で発表する。 （オムニバス方式）
	神経内科学 論文指導	研究して得られた成果に対して、指導教員と議論を積み重ねて、データの信憑性、実験手段の妥当性、結果の統計学的解析、研究成果の解釈について徹底的に検討する。必要な研究の追加や問題点があれば、その解決策を指導する。充分な研究結果が得られたと判断されたら、具体的な論文の作成を指導し、論文の内容についても充分に議論し、論文の作成過程を学ばせる。
	神経内科専門医 養成講座	神経内科専門医は神経難病等の診断が困難な疾患の診療を求められる。種々の診断手法も必要となるため、神経生理学的（脳波、筋電図、誘発電位検査等）、高次脳機能、免疫学的、遺伝子学的および神経画像的検査等の専門知識を身につけさせる。講義、セミナー等で専門知識を得て、診療現場で実践的に専門医に必要な知識を習熟させる。
	精神医学特論	精神医学、産業精神医学、緩和ケアおよび精神科治療学という精神医学4分野の全般にわたり、講義やカンファレンスを中心として、基礎知識を得ると同時に実践応用するための経験を蓄積する。すなわち、精神医学の基本を学び、発展応用する能力の習得を目指すのが目的である。
	精神医学演習	抄読会、カンファレンス、セミナー、研究会などの多彩な機会を通して、精神医学全般にわたる幅広い基礎知識を実践的に習得するともに、大学院生自ら発表・議論を行うことにより、プレゼンテーションおよびディスカッション能力の基礎を身につける。例えば、精神医学に関連する最新の英文原著論文を読んで、抄読会で紹介するとともに問題点を議論する。これらを通じて、自ら研究テーマを見出し、解決していく能力の獲得を目指す。
	精神医学実習	自分の研究テーマについて結果が得られたら、指導教員のもと生化学的試料の測定、生理学的なデータを統計学的手法を用いて検討して討論し、問題点を明らかにする。このような過程を繰り返して研究のまとめ方を学ぶ。論文執筆においては、実際に論文を書きながら、指導教員との議論、繰り返しの修正過程などの経験を通して、論文の構造・構成、記載法、さらに論文投稿・発表の倫理などを系統的かつ実践的に修得する。 （オムニバス方式）
	精神医学論文指導	自分の研究テーマの概要が決まったのち、指導教員の下で具体的な研究の方向性や手技・手法、研究倫理などに関する議論を行い、研究の組み立てを学ぶ。指導を受けながら実際に研究を開始し、得られた結果に対してその都度議論する。研究結果の討論などを通して、科学的なものの考え方、リサーチマインドを理解する。学会発表等においては、発表のまとめ方を含め、より高度のプレゼンテーション能力を身につける。
	精神科専門医・ 精神保健指定医 養成講座	精神科専門医には、統合失調症、気分障害、認知症、児童思春期など幅広い精神障害の診断及び治療はもとより、精神薬理学、司法精神医学、社会精神医学、産業精神医学などの知識と実践が必要であり、認知機能評価、脳磁気共鳴画像による診断技術や生理機能評価など多岐に渡る。これらを講座の講義・セミナー等で修得するともに、診療現場で実践的に習熟し、精神科専門医の資格取得を目指す。指導医の指導の下、日本精神神経学会の研修手帳に記載された症例に対する診断、治療、他科との連携を実践すると共に、緩和ケアチームの一員としても活動できるようにする。また、措置入院症例を含む必須8症例のケースレポートを作成するために、それぞれの症例に対する臨床症状の評価、診断、治療、家族への対応を含めた指導を精神保健指定の受けながら作成する。

［付録４］授業科目の概要

授　業　科　目　の　概　要 （大学院医学研究科医学専攻）		
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
専門領域科目	職業性中毒学特論	産業医学分野において重要な毒性学・中毒学の全般にわたり、講義やカンファレンスを中心として、基礎知識を得ると同時に実践応用するための経験を蓄積する。毒物の動態・代謝、毒性発現様式、毒性発現機序、ならびに既知の化学物質による有害作用といった産業中毒の基礎を学ぶ。それとともに今後産業現場に導入される新規の化学物質についても、その毒性発現機序を推定し、有害作用を予測することで産業現場での作業管理、作業環境管理、健康管理に対して実践応用できる力を習得する。
	職業性中毒学演習	抄読会、カンファレンス、セミナー、研究会などの多彩な機会を通して、産業中毒の全般にわたる幅広い基礎知識を実践的に習得するともに、大学院生自ら発表・議論を行うことにより、プレゼンテーションおよびディスカッション能力の基礎を身につける。例えば、毒性学や中毒学に関連する最新の英文原著論文を読んで、抄読会で紹介するとともに問題点を議論する。これらを通じて、自ら研究テーマを見出し、解決していく能力の獲得を目指す。
	職業性中毒学実習	自分の研究テーマの概要が決まったのち、指導教員の下で具体的な研究の方向性や手技・手法、研究倫理などに関する議論を行い、研究の組み立てを学ぶ。指導を受けながら実際に研究を開始し、得られた結果に対してその都度議論する。研究結果の討論などを通して、科学的なものの考え方、リサーチマインドを理解する。学会発表等においては、発表のまとめ方を含め、より高度のプレゼンテーション能力を身につける。
	職業性中毒学論文指導	自分の研究テーマについて結果が得られたら、指導教員のもと統計学的手法も用いて実験結果について討論し、問題点を明らかにする。このような過程を繰り返して研究のまとめ方を学ぶ。論文執筆においては、実際に論文を書きながら、指導教員との議論、繰り返しの修正過程などの経験を通して、論文の構造・構成、記載法、さらに論文投稿・発表の倫理などを系統的かつ実践的に修得する。
	がん患者の職場復帰と産業医の役割	本科目は、がんに関する最先端の専門知識および高度な研究能力の習得に加え、チーム医療のリーダーとしての能力や、がん患者の社会生活支援の能力も有し、将来的に病院のがん診療体制の中で活躍できる人材を養成することを目的とした「がん専門医師養成科目」である。 がん人口の増加やがん検診精度の向上とともに、いわゆる働き盛りのがん罹患が増加し、さらに治療成績が大幅に向上したことにより、様々な職種においてがん患者が職場復帰する事例が増えている。職場復帰の支援さらには復帰後の長期的な支援における産業医の役割について事例を交えて解説するとともに、現場での経験を積む。
	病態制御内科学特論	免疫学、臨床免疫学（リウマチ学）、内分泌学、代謝学（糖尿病学）、血液学、感染症学から、2分野を選択する。各分野全般に亘り、講義やカンファレンスを中心として、基礎知識を得ると同時に実践応用するための経験を蓄積する。あらゆる医学の基盤である内科学に関して、常態、および、全身性疾患の病態を通じて基礎医学的知見を習得する。さらに、全身性内科疾患の病態制御を目指した研究に発展応用する能力の習得を目指す。
	病態制御内科学演習	内科学全般にわたる幅広い基礎知識を討論、抄読会、カンファレンス、セミナー、研究会，学会等の多彩な機会を介して実践的に習得する。また、大学院生自らの発表、議論を通じてプレゼンテーションおよびディスカッション能力を習得する。これらの演習を通じて、現在の内科学、及び、内科疾患の病態制御における潮流を実感することで、自らの研究テーマを見出すと同時に、自身の研究テーマや成果の問題点を解決していく能力の獲得を目指す。さらに、自身の研究テーマの展開を考察する事により、新たな研究テーマの創出や長期的展望を持つ能力の習得を目指す。

［付録４］授業科目の概要

授　業　科　目　の　概　要 （大学院医学研究科医学専攻）		
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
専門領域科目	病態制御内科学実習	指導教員と十分に議論し、研究者の希望、世界最先端の流れを考慮し、最も興味深く、実践可能な研究テーマを選択する。また、研究の方向性や研究倫理などの指導を受け、研究の組み立て方を学ぶ。次に、具体的な研究手技・手法、得られた結果の解釈、新たな研究目標の設定については、教員から指導を受けると同時に、他の大学院生を含めたグループ討論を反復して、実践的、効率的、有機的な研究を実践、展開する。さらに、議論の反復により、科学的、創造的な研究思考を習得し、疾患の病態制御を目指した研究に発展させる。結果のまとめ、学会発表等においては、聴衆を意識したより高度のプレゼンテーション能力を身につける。 （オムニバス方式）
	病態制御内科学論文指導	研究テーマについて結果が得られたら、指導教員のもと，及び、大学院生グループで、統計学的手法も用いて実験結果について討論し、問題点を明らかにする。その際、結果に基づき論文構成を意識した議論を行い、論文図表となる実験計画を組むことで、論文化への問題点を常に明らかにする。このような過程を繰り返して研究のまとめ方を学ぶ。論文執筆においては、実際に論文を書きながら、指導教員との議論、繰り返しの修正過程などの経験を通して、論文の構造・構成、記載法、さらに論文投稿・発表の倫理などを系統的かつ実践的に修得する。
	リウマチ専門医養成講座	リウマチ専門医資格の取得を目指す。リウマチ専門医とは、リウマチ・膠原病の診療に必要な知識と技能を有する医師である。これらは、全身の各臓器にわたる病変を対象とする疾患であるため、専門的な医療によって的確な診断と治療を行い、臓器障害の発生・進行を防ぎ、生活の保持・向上に努めることが求められる。また、免疫学、臨床免疫学の基礎知識の習得し、病態を理解する必要である。さらに、免疫難病に対する新規治療の開発を目指したトランスレーショナルリサーチを実践し、免疫難病の病態制御を目指した先端医療を展開する。
	糖尿病専門医・内分泌専門医養成講座	糖尿病専門医資格を取得する事を目標として、糖尿病患者の診療を担当し、糖尿病診療に関する十分な知識と経験を習得する。また、専門医として糖尿病学の発展に貢献できるように、臨床的に有益な知見を自ら見いだして、その成績を発表するためのトレーニングを同時に行う。内分泌専門医として、病態生理を形態学・生理学・免疫学・分子生物学などから多面的に解析し、診断・治療への展開について、講座の講義・セミナー等で修得するともに、診療現場で実践的に習熟し、内分泌専門医の資格取得を目指す。
	病態病理学特論	様々な疾患の原因とその成り立ち、病変の形成機序や転帰に関わる病理学的な基礎知識を習得すると共に、それらの病態を把握しながら病変の肉眼・組織学的特徴を理解し、代表的な疾患の病理組織診断や細胞診断、病理解剖診断を的確に下せるような能力を身につけることが目標である。講義に加え臨床各科とのカンファレンスや病理解剖所見会などを通じて、それらの知識と技能を習得し、科学的で論理的な考え方を養うことを目指す。
	病態病理学演習	病理組織診断や病理解剖の場に参加し、所見の取り方や記録の仕方を学ぶと共に医療において病理学の果たす役割や意義を理解する。病理解剖所見会や臨床各科とのカンファレンス、セミナー、学会などに参加し、病理学に関連した基礎的および最新の知識を習得することを志す。さらに、それらでの発表の機会を利用して、症例報告のまとめ方やプレゼンテーションのスキルを磨く。また、病変の病理学的解析を通じて、自らの研究テーマや研究手法についてのアイデアや応用の仕方を考え、具体的な研究計画を立案する。
	病態病理学実習	切り出しを含む病理検体の処理法と標本作成法、各種染色法、免疫組織化学、分子遺伝学的解析法の知識と技術を習得すると共に、病変の顕微鏡観察法や病理学的所見の評価法、統計学的解析手法についても修練を行い、自らの研究に対して得られた知識や技術を応用する。また、研究結果に対する考察の仕方や関連分野での文献検索法、レビューの仕方、効果的なプレゼンテーション手法を習得する。 （オムニバス方式）

［付録４］授業科目の概要

授　業　科　目　の　概　要 （大学院医学研究科医学専攻）		
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
専門領域科目	病態病理学論文指導	自らの研究テーマに対する動議づけを明確にし、具体的で実行可能な研究計画を立案した上で研究遂行に臨み、得られた結果を論理的に分析すると共に的確な考察を行い、研究の集大成としての科学論文を英文で執筆できるように指導を行う。なお、この過程で論文の構成・文章の組み立て方や論理の展開法、慣用表現の使用法などの論文執筆と投稿に関わる執筆の技法について習熟させる。また、査読の過程で明らかとなった問題点を解決できるように助言と指導を行う。
	病理専門医養成講座Ⅰ	（社）日本病理学会認定の病理専門医の資格取得に関しては、基礎的で一般的な病理学的知識に加え、各種染色法や標本作成手技を含む病理検査室での実践的な内容に関する知識と共に、全身の諸臓器にわたる多様な疾患の病理診断を的確に下せる能力が特に求められる。さらに、一定件数以上の病理組織診断と病理解剖の経験や学術論文も必要である。これらの技能や要件を満たせるような修練を行い、同資格の取得を目指す。
	細胞診専門医養成講座	（社）日本臨床細胞学会認定の細胞診専門医に関しても、病理専門医と同様に幅広い分野にわたって実地診療に密着した高度な細胞診断能力が求められる。細胞診専門医資格取得に十分対応できるような知識と技術の習得を目指す。
	環境発癌	本科目は、がんに関する最先端の専門知識および高度な研究能力の習得に加え、チーム医療のリーダーとしての能力や、がん患者の社会生活支援の能力も有し、将来的に病院のがん診療体制の中で活躍できる人材を養成することを目的とした「がん専門医師養成科目」である。 環境発癌について、発癌のメカニズムから、癌細胞の遺伝子および染色体の変化の特性まで概説する。
	ＴＮＭ分類・病期診断	本科目は、がんに関する最先端の専門知識および高度な研究能力の習得に加え、チーム医療のリーダーとしての能力や、がん患者の社会生活支援の能力も有し、将来的に病院のがん診療体制の中で活躍できる人材を養成することを目的とした「がん専門医師養成科目」である。 がんの診療において必須の基本知識であるＴＮＭ分類と病期診断について、実例を基に解説し、実践的に応用できる知識を習得する。
	微生物学特論	医学微生物学から感染制御学の全般にわたり、講義やカンファレンスを中心に学ぶ。微生物学的観点から生命現象の基本的概念を学ぶと同時に、感染制御の観点から、臨床現場での感染症対策のための経験を蓄積する。感染症の予防、治療、検査、診断、感染制御対策など臨床現場における微生物学的問題点、感染症および感染制御に対する臨床上の問題点を抽出・整理し、発展応用する能力の習得を目指す。
	微生物学演習	抄読会、カンファレンス、セミナー、研究会などの様々な機会を通して、微生物学、感染制御学に関する幅広い基礎知識を実践的に習得する。さらに、大学院生自ら発表・議論を行うことにより、プレゼンテーションおよびディスカッション能力の基礎を身につける。例えば、微生物学または感染制御学に関する最新の英文原著論文を読んで、抄読会で紹介するとともに問題点を議論する。これらを通じて、自ら研究テーマを見出し、解決していく能力の獲得を目指す。
	微生物学実習	研究テーマの概要が決まったのち、指導教員の下で具体的な研究の方向性や手技・手法、研究倫理などに関する議論を行い、研究の組み立てを学ぶ。指導を受けながら実際に研究を開始し、得られた結果に対してその都度議論する。研究結果の討論などを通して、科学的なものの考え方、リサーチマインドを理解する。学会発表等においては、発表のまとめ方を含め、より高度のプレゼンテーション能力を身につける。 （オムニバス方式）

［付録４］授業科目の概要

授　業　科　目　の　概　要 （大学院医学研究科医学専攻）		
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
専門領域科目	微生物学論文指導	自分の研究テーマについて結果が得られたら、指導教員のもと統計学的手法も用いて実験結果について討論し、問題点を明らかにする。このような過程を繰り返して研究のまとめ方を学ぶ。論文執筆においては、実際に論文を書きながら、指導教員との議論、繰り返しの修正過程などの経験を通して、論文の構造・構成、記載法、さらに論文投稿・発表の倫理などを系統的かつ実践的に修得する。
	消化器内分泌外科学特論	臨床医学分野の全般にわたり、講義やカンファレンスを中心として、基礎知識を得ると同時に実践応用するための経験を蓄積する。すなわち、あらゆる医学の基盤ともなっている臨床医学の基本を学び、発展応用する能力の習得を目指すのが目的である。
	消化器内分泌外科学演習	抄読会、カンファレンス、セミナー、研究会などの多彩な機会を通して、臨床医学全般にわたる幅広い基礎知識を実践的に習得するともに、大学院生自ら発表・議論を行うことにより、プレゼンテーションおよびディスカッション能力の基礎を身につける。例えば、臨床医学に関連する最新の英文原著論文を読んで、抄読会で紹介するとともに問題点を議論する。これらを通じて、自ら研究テーマを見出し、解決していく能力の獲得を目指す。
	消化器内分泌外科学実習	自分の研究テーマの概要が決まったのち、指導教員の下で具体的な研究の方向性や手技・手法、研究倫理などに関する議論を行い、研究の組み立てを学ぶ。指導を受けながら実際に研究を開始し、得られた結果に対してその都度議論する。研究結果の討論などを通して、科学的なものの考え方、リサーチマインドを理解する。学会発表等においては、発表のまとめ方を含め、より高度のプレゼンテーション能力を身につける。 （オムニバス方式）
	消化器内分泌外科学論文指導	自分の研究テーマについて結果が得られたら、指導教員のもと統計学的手法も用いて実験結果について討論し、問題点を明らかにする。このような過程を繰り返して研究のまとめ方を学ぶ。論文執筆においては、実際に論文を書きながら、指導教員との議論、繰り返しの修正過程などの経験を通して、論文の構造・構成、記載法、さらに論文投稿・発表の倫理などを系統的かつ実践的に修得する。
	外科専門医養成講座	外科専門医には、高度かつ幅広い専門知識が求められる。 術前術後、外科手術手技、周術期管理などの習得が必要である。これらを講座の講義、セミナー、カンファレンス等で習得すると共に医療現場で実践的に習熟し外科専門医の資格取得を目指す。
	腹部障害特論	本科目は、がんに関する最先端の専門知識および高度な研究能力の習得に加え、チーム医療のリーダーとしての能力や、がん患者の社会生活支援の能力も有し、将来的に病院のがん診療体制の中で活躍できる人材を養成することを目的とした「がん専門医師養成科目」である。 腹部の手術侵襲による生体の反応とそれに伴う臓器障害について実例を示しながら解説する。
	腹部外科腫瘍学	本科目は、がんに関する最先端の専門知識および高度な研究能力の習得に加え、チーム医療のリーダーとしての能力や、がん患者の社会生活支援の能力も有し、将来的に病院のがん診療体制の中で活躍できる人材を養成することを目的とした「がん専門医師養成科目」である。 成人における腫瘍の外科治療について実例をもとに具体的な手法、手術成績、予後などを解説する。

［付録４］授業科目の概要

授　業　科　目　の　概　要 （大学院医学研究科医学専攻）		
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
専門領域科目	腹部外科 再建外科学	本科目は、がんに関する最先端の専門知識および高度な研究能力の習得に加え、チーム医療のリーダーとしての能力や、がん患者の社会生活支援の能力も有し、将来的に病院のがん診療体制の中で活躍できる人材を養成することを目的とした「がん専門医師養成科目」である。 肝、胆、膵、脾、消化管の手術における再建外科学、術後の代謝障害について、実例を示しながら解説する。
	がん治療の 基本原則Ⅰ	本科目は、がんに関する最先端の専門知識および高度な研究能力の習得に加え、チーム医療のリーダーとしての能力や、がん患者の社会生活支援の能力も有し、将来的に病院のがん診療体制の中で活躍できる人材を養成することを目的とした「がん専門医師養成科目」である。 胸腹部外科手術の適応および禁忌、悪性腫瘍の病期分類、根治療法、緩和治療における手術の役割を解説する。
	胸部外科学特論	呼吸器外科（肺・縦隔および胸膜疾患）および乳腺外科の全般にわたり、特に悪性腫瘍についての診断と治療について、講義やカンファレンスを中心として基礎知識を習得する。同時に最新の診断や治療法について自ら考えて実践する能力の育成を目的とする。
	胸部外科学演習	呼吸器外科と乳腺外科全般にわたる幅広い基礎知識を抄読会・カンファレンス・セミナー・各種研究会等に参加して習得するとともに、議論を通して考える能力を身につけ更に自らはｙｙプおすることにより高いプレゼンテーション能力を身につける。最終的には、胸部外科の問題点を明らかにして自分の研究テーマを決定する。
	胸部外科学実習	自分の研究テーマを決定したのちに、指導教員のもとで具体的な研究の概要や方法・手技等について議論を行い、研究の実施に向けての準備を行う。教員の指導の元に実際に研究を開始し、得られた結果や問題点・改良点等について議論を行い、研究の円滑な遂行を目指す。研究セミナーを通じて研究に関する多方面からのの批判・評価を受けて議論する中で、より研究を深めるとともに研究者としての総合的な思考能力を身につける。 （オムニバス方式）
	胸部外科学 論文指導	研究結果を指導教官と議論しながら論文として論理的にまとめる。この段階で浮き彫りになった問題点解決するため必要であれば追実験をを行い、論文の質の更なる向上を図る。最終的に、研究結果を正しくかつよりインパクトのある形で世間に問うために、論文の文章校正や理論展開等について細部にわたって指導教官と議論を重ね、研究者として独り立ちできる修練を行う。
	呼吸器外科専門医 養成講座	呼吸器外科または乳腺外科、いずれか大学院生自身のスペシャリティーを決定したのちに、呼吸器外科分野について専門医として日本をリードできる臨床能力を習得させる。すなわち、臨床手技のみならず、その背景となる基礎医学・統計学や臨床腫瘍学・情報通信技術(IT)等の幅広い分野について、指導教員あるいは必要がれば外部講師を招いて指導を行い、本人の希望を勘案したうえで呼吸器外科専門医・がん薬物療法専門医等の資格取得を目指す。
	乳腺外科専門医 養成講座	呼吸器外科または乳腺外科、いずれか大学院生自身のスペシャリティーを決定したのちに、乳腺外科分野について専門医として日本をリードできる臨床能力を習得させる。すなわち、臨床手技のみならず、その背景となる基礎医学・統計学や臨床腫瘍学・情報通信技術(IT)等の幅広い分野について、指導教員あるいは必要がれば外部講師を招いて指導を行い、本人の希望を勘案したうえで乳腺専門医・がん薬物療法専門医等の資格取得を目指す。

［付録４］授業科目の概要

授　業　科　目　の　概　要 （大学院医学研究科医学専攻）		
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
専門領域科目	胸部障害 再建外科学	本科目は、がんに関する最先端の専門知識および高度な研究能力の習得に加え、チーム医療のリーダーとしての能力や、がん患者の社会生活支援の能力も有し、将来的に病院のがん診療体制の中で活躍できる人材を養成することを目的とした「がん専門医師養成科目」である。 呼吸器系がん及び食道系がん手術における再建外科学、術後の代謝障害について、実例を示しながら解説する。
	がんゲノム 情報解析Ⅱ	本科目は、がんに関する最先端の専門知識および高度な研究能力の習得に加え、チーム医療のリーダーとしての能力や、がん患者の社会生活支援の能力も有し、将来的に病院のがん診療体制の中で活躍できる人材を養成することを目的とした「がん専門医師養成科目」である。 がんゲノム情報解析によるがんの診断や治療における個別化及びがんの予防における有用性につき、実際の応用例を示しながら最新の解析手法を交えて解説する。
	整形外科学特論	整形外科学における診断学と治療学を、関節外科、手外科・外傷、脊椎・脊髄、スポーツ整形外科の4分野にわたり、講義やカンファレンスを中心として、基礎知識を習得するとともに実臨床に応用するための技術を蓄積する。すなわち、整形外科学の基礎を学び、実臨床に応用する能力の習得と向上が目的である。
	整形外科学演習	ジャーナルクラブ（当整形外科で毎週行っている抄読会）、カンファレンス、セミナー、研究会など多くの機会を通して、整形外科全般に渡る幅広い基礎知識を習得する。大学院生自らが発表し、討論することによって、データをまとめる能力、プレゼンテーションする能力、ディスカッションする能力の3つの能力を身につける。他人の論文を客観的、時に批判的に読解する能力を養う。
	整形外科学実習	自分の研究テーマの概要が決まったら、指導教員の下で具体的な研究の方向性や手技・手法、研究倫理などに関して議論を行い、研究を組み立てる。得られた結果は、その都度議論する。暫定的なデータをまとめた上で、ラボミーティング（当整形外科で毎月行っている研究検討会）で毎月発表・討論する。科学的なものの捉え方・考え方を身につける。 （オムニバス方式）
	整形外科学 論文指導	自分の研究テーマについて結果が得られたら、指導教員の下で統計学的な解析手法を用いて、データを整理し、その結果について討論する。その時点における問題点や課題を明確にし、不足したデータがあれば追加実験を行う。実際に論文を書きながら、指導教員と議論する。論文の添削・修正を繰り返すことにより、論文の書き方を身につける。
	整形外科専門医 養成講座	整形外科専門医には、高度な幅広い専門知識が要求される。全身の骨・関節、軟部組織（皮膚・筋・腱など）、神経・血管における疾患・外傷の診断と治療に関することはもとより、リハビリテーション、医療安全、医療法規を含む包括的かつ実践的な知識と技術を修得することが必要である。講義やセミナーを通じて、整形外科専門医の資格取得を目指す。
	ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ医学 特論	リハビリテーション医学の基本的概念やその手法を理解し、臨床や研究の現場で活用できる能力を習得する。リハビリテーション総論（総論、解剖生理学、運動学、診断学、機能障害の評価、リハビリテーション治療学など）、各論（脳血管疾患、骨関節疾患、神経筋疾患、切断、小児疾患、内部疾患等のリハビリテーション）及び地域リハビリテーションなど広く分野を、講義やカンファレンスを通じて学ぶ。

［付録４］授業科目の概要

授業科目の概要 （大学院医学研究科医学専攻）		
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
専門領域科目	ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ医学演習	リハビリテーション医学を基礎から臨床にわたる幅広い知識を実践的に習得し,臨床や研究の現場で実践できる能力を習得する。外来・病棟カンファレンス、抄読会（リハビリテーション部合同・医局）、セミナー（北九州リハビリテーション医会、産業医科大学リハビリテーション医療研究会など）、研究会などに参加する。カンファレンス、抄読会等で、自ら発表・議論を行うプレゼンテーションおよびディスカッション能力を身につける。
	ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ医学実習	研究を自ら立案、実行できるリサーチマインドを身につけ、結果を学会発表にてわかりやすく論理的にプレゼンテーションできる能力を高める。指導教員の下でテーマ及び計画のアウトラインを立案し、その具体的な方法や倫理への配慮などを他の研究者を含めて議論する。研究を開始後は、随時、指導教員と得られた結果を協議し、問題を明らかにし、その解決方法を見つけ出す。 （オムニバス方式）
	ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ医学論文指導	論文作成の方法を論文執筆の過程を通じて系統的かつ実践的に修得する。指導教員のもと実験結果を解析し、討論する。論文作成時に随時、指導教員と議論し、論理的に論文を構成、執筆する。研究方法や結果の適切な提示、緻密な議論を展開し、適切な結論を導く方法を学ぶ。
	ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ専門医養成講座	リハビリテーション専門医には、リハビリテーション医学領域の専門知識のほか、幅広い各科と関連する専門知識も求められる。これらを講座の講義・セミナー等で修得するともに、診療現場で実践的に習熟し、日本リハビリテーション医学会リハビリテーション科専門医の資格取得を目指す。
	消化器内科学特論	消化器内科学全般の消化管、肝胆膵の臓器の構造、機能を理解する。消化器疾患の病態を分子レベルで理解して、その治療の意義を論理的に理解する。これらをカンファランスや指導医とのdiscussionにて学び、さらに新たな知見を探る方法を考える能力も身につける。これらにより消化器病学の領域での新たな知見を世界に発信することを目的とする。
	消化器内科学演習	カンファランス、セミナー、研究会や学会を通して消化器内科学全般の知識と研究の進め方を積極的に学ぶ。さらに指導医との直接のdiscussionにて研究の方法、結果の解釈の仕方やプレゼンテーションの方法を学ぶ。さらにカンファランス、研究会や学会にて発表を行ないプレゼンテーションの経験を積む。また先輩や他の研究機関の発表も参考にして研究会や学会では積極的に質問やコメントを述べるように努める。
	消化器内科学実習	消化器病学の中より基礎的もしくは臨床的な研究テーマを決定し、その分野の重要な論文を詳細に調べ、研究方法を決定する。指導医ならびに先輩に実験手技等の指導を受けながら研究を進め、その際も最新の論文を読みながら自らさらになすべきことを考える。指導医はその方向が誤った方に行かないように指導する。研究方法に関しては積極的に当教室でこれまで行なわれていないような方法、手技を取り入れるように努力する。 （オムニバス方式）
	消化器内科学論文指導	研究の推進により様々なデータが得られるが、それが過去の論文といかに関連するか等を考えながら、方法の問題点等を考える。結果の妥当性を考えながら最新の論文を常に調べ、さらになすべき仕事を考える。結果に筋道だった理論を考え、discussionを整えて論文の執筆を行なう。論文の執筆においてはそれが、充分にその結果から述べられる結論であるか否かを客観的に評価する。その理論の進め方が正しいか否かを指導医は評価して指導する。

［付録４］授業科目の概要

授　業　科　目　の　概　要 （大学院医学研究科医学専攻）		
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
専門領域科目	皮膚科学特論	皮膚病診断学、皮膚病理学、皮膚科検査法および皮膚病治療学という皮膚科4分野の全般にわたり、講義やカンファレンスを中心として、基礎知識を得ると同時に実践応用するための経験を蓄積する。すなわち、皮疹から全身疾患を診断し、病態を考察し、治療を行う能力の習得を目指すのが目的である。
	皮膚科学演習	カンファレンス、セミナー、研究会などの多彩な機会を通して、皮膚科学全般にわたる幅広い基礎知識を実践的に習得するともに、大学院生自ら発表・議論を行うことにより、プレゼンテーションおよびディスカッション能力の基礎を身につける。例えば、皮膚科学に関連する最新の英文原著論文を読んで、紹介するとともに問題点を議論する。これらを通じて、自ら研究テーマを見出し、解決していく能力の獲得を目指す。
	皮膚科学実習	自分の研究テーマの概要が決まったのち、指導教員の下で具体的な研究の方向性や手技・手法、研究倫理などに関する議論を行い、研究の組み立てを学ぶ。指導を受けながら実際に研究を開始し、得られた結果に対してその都度議論する。研究結果の討論などを通して、科学的なものの考え方、リサーチマインドを理解する。学会発表等においては、発表のまとめ方を含め、より高度のプレゼンテーション能力を身につける。
	皮膚科学論文指導	自分の研究テーマについて結果が得られたら、指導教員のもと統計学的手法も用いて実験結果について討論し、問題点を明らかにする。このような過程を繰り返して研究のまとめ方を学ぶ。論文執筆においては、実際に論文を書きながら、指導教員との議論、繰り返しの修正過程などの経験を通して、論文の構造・構成、記載法、さらに論文投稿・発表を実践的に修得する。
	皮膚科専門医養成講座	皮膚科専門医には、高度かつ幅広い専門知識が求められる。視診による皮膚病診断学はもとより、皮膚病理学、皮膚外科、皮膚免疫学、アレルギーの抗原同定のための種々の検査の習熟、熱傷など救急皮膚疾患への対応など多岐に渡る。これらを講座の講義・セミナー等で修得するともに、診療現場で実践的に習熟し、皮膚科専門医の資格取得を目指す。
	泌尿器科学特論	泌尿器科学全般にわたり講義を行い、手術、症例、病理の各カンファレンスに参加し、基礎および実際の泌尿器科臨床について学ぶ。
	泌尿器科学演習	カンファレンス、講義、研究会に参加し、泌尿器科学全般にわたって知識を得る。また、研究会では演題を準備し、プレゼンテーションを行う。さらに自分の研究テーマがどのように泌尿器科学に関与し、どのようにすれば泌尿器科学の発展に寄与できるかを考える。
	泌尿器科学実習	研究テーマにそって指導教官のもとで、研究の方針を立て、仮説を証明するための実験方法を計画し、実際に実験を行う。定期的に研究結果、方針につき指導教官とディスカッションを行い、研究の方法を学ぶ。さらに、臨床へのトランスレーションを考えながら研究を進行させていく。
	泌尿器科学論文指導	多くの論文を読み、論文の形式、記載方法を学び、かつ論文に対する批評ができるようにする。自分の研究結果については、結果のまとめ方、読者の興味を引くような表現方法、読者にわかりやすく簡潔にまとめる能力など論文執筆方法を学びながら、論文を完成し投稿する。
	泌尿器科専門医養成講座	臨床医として全身疾患を理解できるようにし、そのうえで感染症、悪性疾患、結石、腎不全、排尿障害、内分泌疾患、緊急処置、先天異常など幅広く泌尿器科的な専門知識・手技を取得する。講義、カンファレンス、研究会への参加、実際の診察・検査・手術の見学およびこれに参加することにより泌尿器科専門医としての知識と手技を得て、泌尿器科専門医の資格取得を目指す。

［付録４］授業科目の概要

授　業　科　目　の　概　要 （大学院医学研究科医学専攻）		
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
専門領域科目	がん診療体制の整備とがん診療における医療連携	本科目は、がんに関する最先端の専門知識および高度な研究能力の習得に加え、チーム医療のリーダーとしての能力や、がん患者の社会生活支援の能力も有し、将来的に病院のがん診療体制の中で活躍できる人材を養成することを目的とした「がん専門医師養成科目」である。 がん診療に携わる者として国のがん対策基本計画を理解しておくことは重要である。がん対策基本計画の概要を解説するともに、がん診療連携拠点病院の仕組みや役割、それぞれの医療機関におけるがん診療体制、及びがん診療における医療連携の重要性について解説する。
	循環器学特論	循環器病学を非侵襲的診断・侵襲的治療・不整脈の3分野にわたり、講義やカンファレンスを通して基礎知識を得る。循環器病の基本病態を学び、それに対処する治療の本質を学び、解明されていない病態生理や現在の診断・治療の問題点を理解する。
	循環器学演習	抄読会、カンファレンス、セミナー、研究会などを通して、循環器病学学全般にわたる基礎知識を実践的に習得する。このような機会に大学院生自ら発表・議論を行うことにより、プレゼンテーションおよびディスカッション能力の基礎を身につける。さらに、これらを通じて現在の循環器病学の問題点を理解し、自らの研究テーマ（仮説）を見つけ、解決していく方法を考案する。
	循環器学実習	自分の研究テーマが決まったのち、指導教員の下で具体的な研究の方向性や手技・手法、研究倫理などに関する議論を行い、研究の組み立てを学ぶ。仮説を証明するために対象の選び方・得る情報の選択およびその方法を特異的に考える必要があることを指導を受け、学び、実際に研究を開始する。得られた結果に対して指導教員と議論する。新規性の重要性、科学的な考え方を理解する。学会発表等においては、聞く人の立場に立って自分の発表を客観的に眺め、他人に理解される高度のプレゼンテーション能力を身につける。 （オムニバス方式）
	循環器学論文指導	研究テーマについて結果が得られたら、仮説と合致しているか検討する。合致していない時には仮説が間違っていたのか？結果が不正確なのか？問題点を指導教員と検討する。論文執筆においては、「仮説の証明」が最優先事項であることを認識し、実際に論文を書く。現在の論文の基本構造・構成は仮説の証明を行うために工夫されているものであることを理解する。指導教員との議論、繰り返しの修正過程などの経験を通して、論文の記載、さらに論文投稿・発表の倫理などを系統的かつ実践的に修得する。
	腎臓学特論	腎臓生理学、酸塩基平衡、電解質異常、糸球体疾患、尿細管間質性疾患、遺伝性腎疾患、急性および慢性腎不全、血液透析療法や腹膜透析療法などの透析療法学など、腎臓内科に関わる領域について講義やカンファレンスで基礎的知識を得るのみならず、実践応用を行うことができるための学習を行う。腎臓病理学についても腎生検カンファレンスで学習する。
	腎臓学演習	症例検討会、抄読会、カンファレンス、セミナー、研究会、学会などに参加し、腎臓内科学全般にわたる幅広い基礎知識を習得するともに、自ら発表も行い、プレゼンテーションおよびディスカッション能力の基礎を習得する。腎生検を担当し、免疫染色法を実践するとともに、病理診断も行う。腎臓内科学に関連する最新の原著論文を読むことや、学会発表を聞くことにより、腎臓内科学のトレンドを学び、自ら研究目標を見いだす能力を持つことができるようにする。また、カンファレンスなどで進んで研究テーマについて発表を行う。

［付録４］授業科目の概要

授　業　科　目　の　概　要 （大学院医学研究科医学専攻）		
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
専門領域科目	腎臓学実習	腎臓病学に関する研究テーマを指導教員の指導の下で決定し、具体的な研究の方向性や手技・手法、研究倫理などに関して学習し、研究へ取り組んでいく。研究手技やそこから得られた結果について随時指導教員とディスカッションを行い、研究方針へフィードバックする。研究結果の討論などを通して、科学的なものの考え方、リサーチマインドを学習する。得られた成果は学会等で積極的に発表することにより、高度のプレゼンテーション能力を身につける。 （オムニバス方式）
	腎臓学論文指導	研究により得られた結果を学術論文にまとめるための方法を学ぶ。研究結果を解析し、論文として構成していく際に必要な次のステップを決め、論文の全体像を組み立てていく。研究成果は学会などでの発表により第３者の批判、討論も受け、研究の問題点を明らかにする。必要な関連する論文も調べ、参考文献として組み立てていく。実際に論文を執筆し、指導教員との議論の下で修正を繰り返すことを通して、論文の構成、記述、さらに論文投稿の方法などを理解する。
	腎臓専門医養成講座	認定内科医や総合内科専門医のみならず、腎臓内科学に必要な腎臓専門医・指導医、透析専門医・指導医の取得も行うため、高度かつ幅広い専門知識の習得と実践も行う。腎センターや腎臓内科において症例を経験し、指導医の下で実践を積むとともに、研究会や学会への参加を行い必要な単位の取得も行う。
	循環器専門医養成講座	認定内科医や総合内科専門医のみならず、循環器内科学に必要な日本循環器学会専門医の取得も行うため、高度かつ幅広い専門知識の習得と実践も行う。大学病院において症例を経験し、指導医の下で実践を積むとともに、研究会や学会への参加を行い必要な単位の取得も行う。
	放射線科学特論	放射線診断学、核医学、IVR（インターベンショナルラジオロジー）および放射線治療学という放射線医学4分野の全般にわたり、講義やカンファレンスを中心として、基礎知識を得ると同時に実践応用するための経験を蓄積する。すなわち、あらゆる医学の基盤ともなっている放射線科学の基本を学び、発展応用する能力の習得を目指すのが目的である。
	放射線科学演習	抄読会、カンファレンス、セミナー、研究会などの多彩な機会を通して、放射線医学全般にわたる幅広い基礎知識を実践的に習得するともに、大学院生自ら発表・議論を行うことにより、プレゼンテーションおよびディスカッション能力の基礎を身につける。例えば、放射線医学に関連する最新の英文原著論文を読んで、抄読会で紹介するとともに問題点を議論する。これらを通じて、自ら研究テーマを見出し、解決していく能力の獲得を目指す。
	放射線科学実習	自分の研究テーマの概要が決まったのち、指導教員の下で具体的な研究の方向性や手技・手法、研究倫理などに関する議論を行い、研究の組み立てを学ぶ。指導を受けながら実際に研究を開始し、得られた結果に対してその都度議論する。研究結果の討論などを通して、科学的なものの考え方、リサーチマインドを理解する。学会発表等においては、発表のまとめ方を含め、より高度のプレゼンテーション能力を身につける。 （オムニバス方式）
	放射線科学論文指導	自分の研究テーマについて結果が得られたら、指導教員のもと統計学的手法も用いて実験結果について討論し、問題点を明らかにする。このような過程を繰り返して研究のまとめ方を学ぶ。論文執筆においては、実際に論文を書きながら、指導教員との議論、繰り返しの修正過程などの経験を通して、論文の構造・構成、記載法、さらに論文投稿・発表の倫理などを系統的かつ実践的に修得する。

［付録４］授業科目の概要

授　業　科　目　の　概　要 （大学院医学研究科医学専攻）		
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
専門領域科目	放射線科専門医養成講座	放射線科専門医には、高度かつ幅広い専門知識が求められる。すなわち、全身の臓器に及ぶ画像診断学はもとより、放射線生物学、放射線防護・安全管理、放射線物理学、IT（情報通信技術）、IVR（インターベンショナルラジオロジー）、核医学、磁気共鳴画像の原理、造影剤と副作用の対応など多岐に渡る。これらを講座の講義・セミナー等で修得するともに、診療現場で実践的に習熟し、放射線診断専門医の資格取得を目指す（放射線治療専門医養成はがん専門医養成特別コースで行う）。
	放射線腫瘍学	本科目は、がんに関する最先端の専門知識および高度な研究能力の習得に加え、チーム医療のリーダーとしての能力や、がん患者の社会生活支援の能力も有し、将来的に病院のがん診療体制の中で活躍できる人材を養成することを目的とした「がん専門医師養成科目」である。 がんに対する放射線治療の作用機序、臨床的有効性、放射線治療に抵抗性のがんとその対策、将来展望について解説する。
	呼吸器内科学特論	呼吸器内科診断学、治療学を中心とした内科学全般にわたり、講義やカンファレンスを中心として、基礎知識を得ると同時に実践応用するための経験を蓄積する。すなわち、内科学、呼吸器内科学の基本を学び、発展応用する能力の習得を目指すのが目的である。
	呼吸器内科学演習	抄読会、カンファレンス、セミナー、研究会などの多彩な機会を通して、呼吸器内科学全般にわたる幅広い基礎知識を実践的に習得するともに、大学院生自ら発表・議論を行うことにより、プレゼンテーションおよびディスカッション能力の基礎を身につける。例えば、内科学、呼吸器内科学に関連する最新の英文原著論文を読んで、抄読会で紹介するとともに問題点を議論する。これらを通じて、自ら研究テーマを見出し、解決していく能力の獲得を目指す。
	呼吸器内科学実習	自分の研究テーマの概要が決まったのち、指導教員の下で具体的な研究の方向性や手技・手法、研究倫理などに関する議論を行い、研究の組み立てを学ぶ。指導を受けながら実際に研究を開始し、得られた結果に対してその都度議論する。研究結果の討論などを通して、科学的なものの考え方、リサーチマインドを理解する。学会発表等においては、発表のまとめ方を含め、より高度のプレゼンテーション能力を身につける。 （オムニバス方式）
	呼吸器内科学論文指導	自分の研究テーマについて結果が得られたら、指導教員のもと正しい統計学的手法も用いて実験結果について討論し、結果についての解釈や問題点を明らかにする。このような過程を繰り返すことにより研究の科学論文としてのまとめ方を学ぶ。論文執筆においては、実際に論文を書きながら、指導教員との議論、繰り返しの修正過程などの経験を通して、論文の構造・構成、記載法、さらに論文投稿・発表の倫理などを系統的かつ実践的に修得する。
	呼吸器内科専門医養成講座	内科医、呼吸器内科医には、高度かつ幅広い専門知識が求められる。すなわち、問診をはじめとして内科診察の技能、知識に加えて、胸部放射線診断を中心とした画像診断学、血清学診断学などの血液検査や治療学、薬剤性副反応やその対応、気管支鏡検査技術の習熟など多岐に渡る。これらを講座の講義・セミナー等で修得するともに、実際の診療現場で実践的に習熟し、内科専門医、呼吸器内科専門医、気管支鏡専門医の資格取得を目指す。
	人間工学特論	産業医学における人間工学の研究分野について、基本的な事項から最新の知識まで、 講義などを通じて習得できるようにする。加えて、研究を進める上で必要となる、生体の観察や生体の状態を把握するための、生理学的あるいは工学的な手法についても教授し、それを応用するための基礎作りを行う。また近年注目されている、産業医学における睡眠衛生の知識や睡眠障害の問題についても、その基礎的な事項から最新研究まで解説を行う。

［付録４］授業科目の概要

授　業　科　目　の　概　要 （大学院医学研究科医学専攻）		
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
専門領域科目	人間工学演習	Journal Club、セミナー、研究会などの多彩な機会を通して、人間工学全般にわたる幅広い基礎知識を実践的に習得するともに、大学院生自ら発表・議論を行うことにより、プレゼンテーションおよびディスカッション能力の基礎を身につける。具体的には、Journal Clubで人間工学領域あるいは睡眠学領域の最新の英語原著論文を読み、内容を参加者に紹介するとともに、その研究の問題点等についての討論を行う。これらを通じて、自らテーマを見出し、研究を遂行していく能力の獲得を目指す。
	人間工学実習	自分の研究テーマの概要が決まったのち、指導教員の下で具体的な研究の方向性や手技・手法、研究倫理などに関する議論を行い、研究の組み立てを学ぶ。指導を受けながら実際に研究を開始し、得られた結果に対してその都度議論する。研究結果の討論などを通して、科学的なものの考え方、リサーチマインドを理解する。学会発表も行い、発表のまとめ方を含め、より高度のプレゼンテーション能力を身につける。 （オムニバス方式）
	人間工学論文指導	自分の研究テーマについて結果が得られたら、指導教員のもと統計学的手法も用いて実験結果について討論し、問題点を明らかにする。このような過程を繰り返して研究のまとめ方を学ぶ。論文執筆においては、実際に論文を書きながら、指導教員との議論、繰り返しの修正過程などの経験を通して、論文の構造・構成、記載法、さらに論文投稿・発表の倫理などを系統的かつ実践的に修得する。
	脳神経外科学特論	脳神経外科学全般にわたり、急性期疾患の管理・治療から慢性期の患者管理に至るまで、講義やカンファレンスを中心として、基礎知識を得ると同時にそれを実践応用できるように経験を蓄積する。脳神経外科という特殊性を認識、理解し、実践応用可能な能力を習得することを目指すのが目的である。
	脳神経外科学演習	毎日のカンファレンス、手術、病棟実習、外来患者の診察、セミナーや研究会を通して、脳神経外科学全般にわたる幅広い基礎知識を習得し、それを実践的に応用できるようにする。こうした経験を通して、自ら脳神経外科学における研究テーマを見出し、自分で解決していく能力を獲得することを目指す。
	脳神経外科学実習	自らの研究テーマが決まったら、指導教官のもとで、研究の具体的な方法論、手技、データの解釈、研究倫理などに関する議論を行い、大学院生自らの力で研究会で発表する力、討論する力を養い、研究における基礎的能力を身につけることを目指す。具田的には関連する論文を読みこなし、それを理解・批判する能力を習得する、論文から新たな研究視点を見出すなどのより高度な能力を身につける。 （オムニバス方式）
	脳神経外科学論文指導	研究テーマで、指導教官のもと、研究を行い、そこで得られた実験データを論理的に解釈し、その妥当性、矛盾点を科学的に考察できる能力を身につける。こうした経験を通して、自らの力で研究発表ができ、また科学論文を作成できる能力を身につける。
	脳神経外科専門医養成講座	脳神経外科医には、神経学、脳神経外科学総論、各論、神経科学などの幅広い知識が要求される。こうした知識を獲得するためには、研究会、各種関連学会に参加し、また自らの研究テーマで発表、討論ができなければならない。このような経験を通して、脳神経外科専門医の資格取得を目指す。
	眼科学特論	眼の解剖、生理など眼科学の基礎知識を身につけると共に、中枢神経系や循環器系など全身の他臓器と眼との関連について学ぶ。また、各種眼疾患の発症機序を理解し、それを基に診断、治療に関する知識を身につける。さらに、講義やカンファレンスを通じて、眼科領域で進行中の基礎研究、臨床研究に触れ、研究に対する心構えや研究計画の建て方、研究の進め方などの知識習得を目的とする。

［付録４］授業科目の概要

授　業　科　目　の　概　要 （大学院医学研究科医学専攻）		
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
専門領域科目	眼科学演習	大学院生が自ら、抄読会で眼科に関する英語論文を紹介する。カンファレンスやセミナー、研究会などで､受け持った症例のプレゼンテーションを行い、問題点などについて議論を行う。このように、多彩な機会を通して、身につけた眼科学の基礎知識を実践的に活用し、プレゼンテーションおよびディスカッション能力を身につける。さらに、自ら研究テーマを見出し、解決していく能力の獲得を目指す。
	眼科学実習	眼科学を学ぶ過程で興味を持った分野などで､指導教員と話し合って研究テーマを決定する。その後、指導教員と共に具体的な研究の方向性や手技・手法など研究計画を組み立てる。その際、研究倫理について学び、理解する。計画に沿って研究を開始し、得られた結果について指導教員と議論し、必要に応じて計画を修正し､研究を進めて行く。このような過程を通して、科学的なものの考え方、リサーチマインドを育てる。 （オムニバス方式）
	眼科学論文指導	研究テーマについて結果が得られたら、指導教員と共に結果の解釈の仕方、処理の仕方を検討する。この際、統計学的手法や画像データの処理法なども学ぶ。さらに、考察に当たっての関連論文の調べ方や利用法につて身につける。このような過程を通じて研究のまとめ方を学ぶ。論文執筆においては、指導教員の助言の下、論文の構造・構成、記載法、論文引用法さらに論文投稿の方法を修得する。
	眼科専門医 養成講座	眼科専門医には、高度かつ幅広い専門知識と技量が求められる。すなわち、眼に関する解剖学的、生理学的知識と共に全身の臓器との関係を理解していなければならない。さらに、眼疾患の診断・治療に関するb知識、点眼や全身投与薬に関する知識、眼科手術についての知識と技量の修得が必要である。これらを講座の講義､カンファランス、セミナーなどで修得すると共に、外来、病棟、手術場の診療現場で実際に経験し、眼科専門医の資格取得を目指す。
	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学特論	耳科学、鼻科学、口腔・咽喉頭科学、頭頸部外科学などの分野の全般にわたり、講義やカンファレンスを中心として基礎知識を習得させると同時に実践応用するための経験を積ませる。複雑な構造と機能を有する耳鼻咽喉・頭頸部領域の基本を学ばせ、発展応用する能力の習得を目指すのが目的である。
	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学演習	抄読会、カンファレンス、セミナー、研究会などさまざまな機会を通して耳鼻咽喉・頭頸部外科全般にわたる幅広い基礎知識と実践能力を習得するとともに、大学院生自らが発表・議論を行うことにより、プレゼンテーションおよびディスカッション能力の基礎を身につける。例えば関連する最新の英文原著論文を読んで抄読会で紹介するとともに問題点を議論する。これらを通じて自ら研究課題を見出し、解決していく能力の獲得を目指す。
	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学実習	研究課題の概要が決まった後、指導教員の下で具体的な研究の方向性や手技、手法、研究倫理などに関する議論を行い、研究の組み立てを学ぶ。指導を受けながら実際に研究を開始し、得られた結果についてその都度議論する。研究結果の討論を通じて科学的、論理的なものの考え方、リサーチマインドを育成する。学会発表においては発表のまとめ方を含め、より高度なプレゼンテーション能力を身につける。 （オムニバス方式）
	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 論文指導	研究課題について結果が得られたら、指導教員の下、統計学的手法も用いて実験結果について討論し問題点を明らかにする。この過程を繰り返して研究のまとめ方を学ぶ。論文執筆においては実際に論文を書きながら、指導教員との議論、修正の課程を繰り返し、これを通して論文の構造、構成、記述法さらに論文投稿の方法、倫理を系統的かつ実践的に修習する。

［付録４］授業科目の概要

授　業　科　目　の　概　要 （大学院医学研究科医学専攻）		
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
専門領域科目	耳鼻咽喉科専門医養成講座	耳鼻咽喉科専門医には高度で幅広い専門知識と技術が求められる。すなわち耳科、鼻科、口腔・咽頭科、頭頸部外科の各分野にわたる疾患の病態、診断、治療を十分に理解し、実践できる能力を修得しなければならない。これを講義、セミナー、現場での診療を通して学び、耳鼻咽喉科専門医の資格取得を目指す。
	麻酔科学特論	麻酔管理、集中治療とクリティカル・ケアおよびペインクリニックの麻酔科学が関係する分野の全般にわたり、講義やカンファレンスを中心として、基礎知識を得ると同時に実践応用するための経験を蓄積する。生理学、薬理学、解剖学などの基礎知識を基盤として全身管理の基本を学び、重症患者管理に発展応用する能力の習得を目指すのが目標である。
	麻酔科学演習	麻酔科学全般にわたる幅広い基礎知識を抄読会、カンファレンス、セミナー、研究会、学術集会などの機会を通して、実践的に習得する。また、大学院生自ら発表・議論を行うことにより、プレゼンテーションおよびディスカッション能力の基礎を身につける。これらを通じて、研究テーマを深く追求していく能力を習得するとともに、自ら新しい研究テーマを見出す能力を獲得することを目標とする。
	麻酔科学実習	研究テーマの概要を指導教員とともに決定する。指導教員の下で具体的な研究の方向性や手技・手法、研究倫理などに関する議論を行い、研究の組み立てを学ぶ。指導を受けながら実際に研究を開始し、得られた結果に対してその都度議論する。研究結果の討論などを通して、科学的なものの考え方、リサーチマインドを理解する。また、学会発表等においては、高度なプレゼンテーション能力を身につけることを目標とする。
	麻酔科学論文指導	研究テーマについて結果が得られた後、指導教員のもと実験結果について討論し、問題点、今後の研究方向を明らかにする。研究テーマについて結果をまとめ論文執筆を行う。論文執筆においては、指導教員の執筆指導のもと統計学的手法、論文の構造・構成、記載法、さらに論文投稿・発表の倫理などを系統的かつ実践的に修得する。自ら論文作成、論文投稿、論文受理まで行える能力を身につけることを目標とする。
	麻酔科専門医養成講座	麻酔科専門医には、高度かつ幅広い専門知識が求められる。すなわち、生理学、薬理学、解剖学などの基礎知識を基盤として、呼吸、循環、神経内分泌機能、感染制御といった侵襲に対する生体防御系の反応について理解が必要となる。これらを臨床応用する技術を講座の講義・セミナー等で修得するともに、診療現場で実践的に習熟し、麻酔科専門医の資格取得を目標とする。
	緩和ケアの基本概念と実践	本科目は、がんに関する最先端の専門知識および高度な研究能力の習得に加え、チーム医療のリーダーとしての能力や、がん患者の社会生活支援の能力も有し、将来的に病院のがん診療体制の中で活躍できる人材を養成することを目的とした「がん専門医師養成科目」である。 がん患者の身体症状および精神症状に対する緩和治療の意義、がん性疼痛を含めた多彩ながんに伴う症状の特徴とその対応を解説する。がんにおける不安、うつ症状の理解を深めるとともに、疾患の全経過に関与する緩和医療のありかたについて解説する。
	産科婦人科学特論	周産期・新生児学、婦人科腫瘍学、生殖内分泌学の3分野の基本的事項から治療にわたって、講義やカンファレンスを中心として、基礎知識を得ると同時に実践応用するための経験を蓄積する。産婦人科学は人の発生から老年医学までの女性を対象とした幅広い学問であり女性医学としての基本を学び、発展応用する能力の習得を目指すのが目的である。

［付録４］授業科目の概要

授　業　科　目　の　概　要 （大学院医学研究科医学専攻）		
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
専門領域科目	産科婦人科学演習	抄読会、カンファレンス、セミナー、研究会などの多彩な機会を通して、産婦人科全般にわたる幅広い基礎知識を実践的に習得するともに、大学院生自ら発表・議論を行うことにより、プレゼンテーションおよびディスカッション能力の基礎を身につける。例えば、産婦人科に関連するカンファレンスで臨床的に問題のあった症例を発表するとともに問題点を議論する。これらを通じて、自ら研究テーマを見出し、解決していく能力の獲得を目指す。
	産科婦人科学実習	産婦人科の研究テーマは主に産科と婦人科に分けられる。希望により研究テーマの概要が決まったのち、指導教員の下で具体的な研究の方向性や手技・手法、研究倫理などに関する議論を行い、研究の組み立てを学ぶ。指導を受けながら実際に研究を開始し、得られた結果に対してその都度議論する。研究結果の討論などを通して、科学的なものの考え方を理解する。学会発表等においては、発表のまとめ方を含め、プレゼンテーション能力を身につける。 （オムニバス方式）
	産科婦人科学論文指導	産婦人科の研究テーマについて結果が得られたら、指導教員のもと統計学的手法も用いて実験結果について討論し、問題点を明らかにする。このような過程を繰り返して研究のまとめ方を学ぶ。論文執筆においては、実際に論文を書きながら、指導教員との議論、繰り返しの修正過程などの経験を通して、論文の構造・構成、記載法、さらに論文投稿・発表の倫理などを系統的かつ実践的に修得する。
	臨床腫瘍診断学	本科目は、がんに関する最先端の専門知識および高度な研究能力の習得に加え、チーム医療のリーダーとしての能力や、がん患者の社会生活支援の能力も有し、将来的に病院のがん診療体制の中で活躍できる人材を養成することを目的とした「がん専門医師養成科目」である。 炎症マーカーと腫瘍マーカー検査はがんの診断および炎症等との鑑別診断、治療効果の判定、再発の診断になくてはならないものである。超音波検査も含めて、がん診療に必須なこれらの診断法を解説する。
	小児科学特論	小児感染症学、小児免疫学、小児アレルギー学、小児神経学、小児内分泌代謝学、小児血液学、小児腫瘍学、小児腎臓病学、小児消化器病学、小児循環器病学、新生児学などの小児科学の全般にわたり、講義やカンファレンスを中心として、基礎知識を得ると同時に実践応用するための経験を蓄積する。すなわち、小児科学の基本を学び、発展応用する能力の習得を目指すのが目的である。
	小児科学演習	抄読会、カンファレンス、セミナー、研究会などの多彩な機会を通して、小児科学全般にわたる幅広い基礎知識を実践的に習得するともに、大学院生自ら発表・議論を行うことにより、プレゼンテーションおよびディスカッション能力の基礎を身につける。例えば、小児科学に関連する最新の英文原著論文を読んで、抄読会で紹介するとともに問題点を議論する。これらを通じて、自ら研究テーマを見出し、解決していく能力の獲得を目指す。
	小児科学実習	自分の研究テーマの概要が決まったのち、指導教員の下で具体的な研究の方向性や手技・手法、研究倫理などに関する議論を行い、研究の組み立てを学ぶ。指導を受けながら実際に研究を開始し、得られた結果に対してその都度議論する。研究結果の討論などを通して、科学的なものの考え方、リサーチマインドを理解する。学会発表等においては、発表のまとめ方を含め、より高度のプレゼンテーション能力を身につける。 （オムニバス方式）
	小児科学論文指導	自分の研究テーマについて結果が得られたら、指導教員のもと統計学的手法も用いて実験結果について討論し、問題点を明らかにする。このような過程を繰り返して研究のまとめ方を学ぶ。論文執筆においては、実際に論文を書きながら、指導教員との議論、繰り返しの修正過程などの経験を通して、論文の構造・構成、記載法、さらに論文投稿・発表の倫理などを系統的かつ実践的に修得する。

［付録４］授業科目の概要

授　業　科　目　の　概　要 （大学院医学研究科医学専攻）		
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
専門領域科目	小児科専門医養成講座	小児科専門医には、高度かつ幅広い専門知識が求められる。すなわち、小児感染症学、小児免疫学、小児アレルギー学、小児神経学、小児内分泌代謝学、小児血液学、小児腫瘍学、小児腎臓病学、小児消化器病学、小児循環器病学、新生児学など多岐に渡る。これらを講座の講義・セミナー等で修得するともに、診療現場で実践的に習熟し、小児科専門医の資格取得を目指す。
	救急医学特論	救急医学では、救急疾患による呼吸器系、循環器系、神経・内分泌系、免疫系、代謝系などの生体反応に注目し、全身状態の確保と診断を迅速に行い、適切な治療を行うことが必要であり、これらの病態解明と制御についての基礎および臨床研究を行うことで、臨床的に意義のある知見を得ることを目的とする。 また、研究実施に向けて、批判的吟味や研究手法についても学ぶ。
	救急医学演習	救急疾患の病態解明と制御について研究するための研究手法を学び、さらにその意義と問題点を理解し、その手技を演習を通して取得する。
	救急医学実習	救急医学において広い見地に立った研究を遂行できるよう、専門知識と技能を培い、適切な情報の収集と分析ができるようになる。
	救急医学論文指導	様々な研究手法を用いて得られた結果を原著論文としてまとめ、救急疾患の病態解明と制御について総合的に理解する。
	救急科専門医養成講座	安全かつ安心な質の高い救急医療を提供するため，救急医学およびその関連分野の診療を実践する専門医を育成する。具体的には下記の３つの資質を修得する。 １）十分な救急医学領域，および関連領域の専門知識と技量とコミュニケーションスキル ２）常に進歩する医療・医学に即して適切な臨床的判断能力、問題解決能力 ３）医の倫理に配慮し、安全・安心な診療を提供する態度
	がん治療の基本原則Ⅱ	本科目は、がんに関する最先端の専門知識および高度な研究能力の習得に加え、チーム医療のリーダーとしての能力や、がん患者の社会生活支援の能力も有し、将来的に病院のがん診療体制の中で活躍できる人材を養成することを目的とした「がん専門医師養成科目」である。 抗がん剤治療および分子標的療法の適応・目標・有用性、造血幹細胞移植、化学療法における支持療法、毒性の評価とグレード分類の講義を行い、実践に必要な基本知識を習得させる。
	各種がんの治療	本科目は、がんに関する最先端の専門知識および高度な研究能力の習得に加え、チーム医療のリーダーとしての能力や、がん患者の社会生活支援の能力も有し、将来的に病院のがん診療体制の中で活躍できる人材を養成することを目的とした「がん専門医師養成科目」である。 臓器別にそれぞれのがん（腫瘍）の組織学的分類、病期分類、診断法についてまず概説する。その理解のもとに、外科手術、化学療法、放射線療法、およびそれらを組み合わせた集学的治療について、適応、目標、有用性を解説する。
	がんの生命倫理、法的経済的問題、心理社会的側面	本科目は、がんに関する最先端の専門知識および高度な研究能力の習得に加え、チーム医療のリーダーとしての能力や、がん患者の社会生活支援の能力も有し、将来的に病院のがん診療体制の中で活躍できる人材を養成することを目的とした「がん専門医師養成科目」である。 インフォームド・コンセント、医学研究に関する倫理、QOLの評価法、がん研究における利害相反の定義について解説する。

令和8年度　大学院医学研究科医学専攻
受講希望科目調査票

所属	
学生番号	
氏名	

区分	授業科目			選択	必修選択の別	備考	単位数
共通科目	産業医学研究基盤コース　※1			○	全15コマ 必修	オムニバス	2
	医学研究概論	第１解剖学	構造形態と組織構造		15コマ 選択必修	オムニバス	2
		第２解剖学	機能形態と細胞構造				
		法医学	法医診断学概論				
		分子生物学	分子生物学概論				
		薬理学	分子標的薬				
		第１生理学	統合の生理機構				
		神経内科学	神経疾患の分子生物学				
		第１内科学	臨床免疫学				
		第１病理学	病態病理学				
		微生物学	感染病態学				
		第１外科学	臓器障害学概論				
		第２外科学	臓器障害学概論				
		整形外科学	運動器の機能と障害				
		リハビリテーション医学	運動器障害学概論				
		放射線科学	医用画像から得られる最新生体情報				
		第３内科学	消化器障害				
		皮膚科学	皮膚病態学				
		泌尿器科学	尿路機能異常				
		免疫学・寄生虫学	生体防御と認識機構				
		第２内科学	仮説提示の重要性				
		呼吸器内科学	びまん性肺疾患				
		脳神経外科学	脳腫瘍学				
		眼科学	遺伝学検査と遺伝カウンセリング				
		耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	感音難聴の治療開発				
		麻酔科学	麻酔と患者転帰について				
		産科婦人科学	産婦人科癌の病因について				
		小児科学	小児造血器腫瘍学				
		救急・集中治療医学	侵襲と免疫反応				
	産業医学特論　※1			○	全9コマ 必修	オムニバス	1

共通科目	医学英語特別コース	第１解剖学	大脳新皮質層形成の分子メカニズム		9コマ 選択必修	オムニバス	1
		第２解剖学	細胞死の形態				
		法医学	糖尿病性創傷治癒過程の分子メカニズム				
		分子生物学	がんの分子生物学				
		第１生理学	睡眠生体リズムの生理機構				
		薬理学	組織線維化のメカニズムと治療薬の開発				
		衛生学	化学物質曝露と疾患				
		労働衛生工学	化学物質のばく露防止対策				
		環境疫学	飲料水ヒ素汚染				
		第2病理学	Pathologic Basis of Human Disease				
		公衆衛生学(＊国際遠隔講義)	Work, Sleep, and Health 労働、睡眠と健康				
		免疫学・寄生虫学	自然免疫と獲得免疫				
		免疫学・寄生虫学	寄生虫感染と免疫				
		産業保健管理学	産業保健活動と産業医				
		神経内科学	神経変性疾患の病態抑止治療				
		精神医学	臨床薬理学的な研究や職場のメンタルヘルスの動向などについて解説する				
		第１内科学	臨床免疫学の治療の最先端				
		第１病理学	腫瘍の分子病理とゲノミクス				
		微生物学	Genomic approaches to studying the human microbiota				
		第１外科学	The trend of minimmaly invasive surgery for gastric cancer				
		第２外科学	肺癌研究と臨床における最新の知見				
		リハビリテーション医学	ポストポリオ症候群の病態と治療				
		整形外科学	メカニカルストレスの増減と骨形成シグナルの調節機構				
		第３内科学	ウイルソン病の分子機構				
		皮膚科学	炎症性皮膚疾患の病態と治療戦略				
		泌尿器科学	前立腺癌治療の個別化				
		第２内科学	HFpEFの左室心筋特性について				
		放射線科学	限局性肺病変のCT診断				
		呼吸器内科学	呼吸器疾患における細菌叢				
		人間工学	作業関連運動器疾患の人間工学対策				
		脳神経外科学	悪性脳腫瘍に対する光線力学療法・診断				
		眼科学	全身性疾患と眼疾患				
		耳鼻咽喉科学・頭頸部外科学	騒音性難聴の病態				
		麻酔科学	痛みの発生機序と鎮痛薬の薬理作用				
		産科婦人科学	婦人科悪性腫瘍の臨床病理学的解析				
		小児科学	小児がんとゲノム医療				
		職業性中毒学	化学物質による臓器毒性とその発症機序				
		救急・集中治療医学	敗血症性ショックの病態と診断・治療における最近の進歩				
		＊国際遠隔講義(IEOH2026) 後日公表					

区分	授 業 科 目	選 択	必修選択の別	担当講座等	単位数
専門領域科目（産業医学関連科目※6単位を含む30単位以上を選択）	解剖学特論		選択	第１解剖学	6
	解剖学演習		選択	第１解剖学	6
	解剖学実習		選択	第１解剖学	6
	解剖学論文指導		選択	第１解剖学	6
	組織学特論		選択	第２解剖学	6
	組織学演習		選択	第２解剖学	6
	組織学実習		選択	第２解剖学	6
	組織学論文指導		選択	第２解剖学	6
	法医学特論		選択	法医学	6
	法医学演習		選択	法医学	6
	法医学実習		選択	法医学	6
	法医学論文指導		選択	法医学	6
	法医認定医養成講座		選択	法医学	2
	生化学特論		選択	生化学	6
	生化学演習		選択	生化学	6
	生化学実習		選択	生化学	6
	生化学論文指導		選択	生化学	6
	腫瘍生化学特論		選択	がん専門医養成科目(生化学)	1
	がんゲノム情報解析Ⅰ		選択	がん専門医養成科目(生化学)	1
	分子生物学特論		選択	分子生物学	6
	分子生物学演習		選択	分子生物学	6
	分子生物学実習		選択	分子生物学	6
	分子生物学論文指導		選択	分子生物学	6
	腫瘍分子生物学		選択	がん専門医養成科目(分子生物学)	1
	免疫学特論		選択	免疫学・寄生虫学	6
	免疫学演習		選択	免疫学・寄生虫学	6
	免疫学実習		選択	免疫学・寄生虫学	6
	免疫学論文指導		選択	免疫学・寄生虫学	6
	腫瘍免疫学		選択	がん専門医養成科目(免疫学・寄生虫学)	2
	病理形態学特論		選択	第２病理学	6
	病理形態学演習		選択	第２病理学	6
	病理形態学実習		選択	第２病理学	6
	病理形態学論文指導		選択	第２病理学	6
	病理専門医養成講座Ⅱ		選択	第２病理学	2
	腫瘍病理学		選択	がん専門医養成科目(第２病理学)	0.5

区分	授 業 科 目	選 択	必修選択の別	担当講座等	単位数
専門領域科目（産業医学関連科目※6単位を含む30単位以上を選択）	神経生理学特論		選択	第１生理学	6
	神経生理学演習		選択	第１生理学	6
	神経生理学実習		選択	第１生理学	6
	神経生理学論文指導		選択	第１生理学	6
	細胞生理学特論		選択	第２生理学	6
	細胞生理学演習		選択	第２生理学	6
	細胞生理学実習		選択	第２生理学	6
	細胞生理学論文指導		選択	第２生理学	6
	薬理学特論		選択	薬理学	6
	薬理学演習		選択	薬理学	6
	薬理学実習		選択	薬理学	6
	薬理学論文指導		選択	薬理学	6
	衛生学特論　※		選択	衛生学	6
	衛生学演習		選択	衛生学	6
	衛生学実習		選択	衛生学	6
	衛生学論文指導		選択	衛生学	6
	労働衛生工学特論　※		選択	労働衛生工学	6
	労働衛生工学演習		選択	労働衛生工学	6
	労働衛生工学実習		選択	労働衛生工学	6
	労働衛生工学論文指導		選択	労働衛生工学	6
	環境衛生化学特論		選択	がん専門医養成科目(労働衛生工学)	0.5
	環境疫学特論　※		選択	環境疫学	6
	環境疫学演習		選択	環境疫学	6
	環境疫学実習		選択	環境疫学	6
	環境疫学論文指導		選択	環境疫学	6
	環境産業疫学特論		選択	がん専門医養成科目(環境疫学)	0.5
	集団健診論		選択	がん専門医養成科目(環境疫学)	0.25
	公衆衛生学特論　※		選択	公衆衛生学	6
	公衆衛生学演習		選択	公衆衛生学	6
	公衆衛生学実習		選択	公衆衛生学	6
	公衆衛生学論文指導		選択	公衆衛生学	6
	計量分析疫学特論		選択	がん専門医養成科目(公衆衛生学)	0.75

区分	授 業 科 目	選 択	必修選択の別	担当講座等	単位数
専門領域科目（産業医学関連科目※６単位を含む３０単位以上を選択）	寄生虫学特論		選択	免疫学・寄生虫学	6
	寄生虫学演習		選択	免疫学・寄生虫学	6
	寄生虫学実習		選択	免疫学・寄生虫学	6
	寄生虫学論文指導		選択	免疫学・寄生虫学	6
	産業保健管理学特論　※		選択	産業保健管理学	6
	産業保健管理学演習		選択	産業保健管理学	6
	産業保健管理学実習		選択	産業保健管理学	6
	産業保健管理学論文指導		選択	産業保健管理学	6
	神経内科学特論		選択	神経内科学	6
	神経内科学演習		選択	神経内科学	6
	神経内科学実習		選択	神経内科学	6
	神経内科学論文指導		選択	神経内科学	6
	神経内科専門医養成講座		選択	神経内科学	2
	精神医学特論		選択	精神医学	6
	精神医学演習		選択	精神医学	6
	精神医学実習		選択	精神医学	6
	精神医学論文指導		選択	精神医学	6
	精神科専門医・精神保健指定医養成講座		選択	精神医学	2
	職業性中毒学特論　※		選択	職業性中毒学	6
	職業性中毒学演習		選択	職業性中毒学	6
	職業性中毒学実習		選択	職業性中毒学	6
	職業性中毒学論文指導		選択	職業性中毒学	6
	がん患者の職場復帰と産業医の役割		選択	がん専門医養成科目（*）	1
	病態制御内科学特論		選択	第１内科学	6
	病態制御内科学演習		選択	第１内科学	6
	病態制御内科学実習		選択	第１内科学	6
	病態制御内科学論文指導		選択	第１内科学	6
	リウマチ専門医養成講座		選択	第１内科学	2
	糖尿病専門医・内分泌専門医養成講座		選択	第１内科学	2
	病態病理学特論		選択	第１病理学	6
	病態病理学演習		選択	第１病理学	6
	病態病理学実習		選択	第１病理学	6
	病態病理学論文指導		選択	第１病理学	6
	病理専門医養成講座Ｉ		選択	第１病理学	2
	細胞診専門医養成講座		選択	第１病理学	2
	環境発癌		選択	がん専門医養成科目（第１病理学）	0.5
	ＴＮＭ分類・病期診断		選択	がん専門医養成科目（第１病理学）	0.5

区分	授 業 科 目	選 択	必修選択の別	担当講座等	単位数
専門領域科目（産業医学関連科目※6単位を含む30単位以上を選択）	微生物学特論		選択	微生物学	6
	微生物学演習		選択	微生物学	6
	微生物学実習		選択	微生物学	6
	微生物学論文指導		選択	微生物学	6
	消化器内分泌外科学特論		選択	第１外科学	6
	消化器内分泌外科学演習		選択	第１外科学	6
	消化器内分泌外科学実習		選択	第１外科学	6
	消化器内分泌外科学論文指導		選択	第１外科学	6
	外科専門医養成講座		選択	第１外科学	2
	腹部障害特論		選択	がん専門医養成科目(第１外科学)	0.5
	腹部外科腫瘍学		選択	がん専門医養成科目(第１外科学)	0.5
	腹部外科再建外科学		選択	がん専門医養成科目(第１外科学)	1
	がん治療の基本原則Ⅰ		選択	がん専門医養成科目(第１外科学)	1
	胸部外科学特論		選択	第２外科学	6
	胸部外科学演習		選択	第２外科学	6
	胸部外科学実習		選択	第２外科学	6
	胸部外科学論文指導		選択	第２外科学	6
	呼吸器外科専門医養成講座		選択	第２外科学	2
	乳腺外科専門医養成講座		選択	第２外科学	2
	胸部障害再建外科学		選択	がん専門医養成科目(第２外科学)	1
	がんゲノム情報解析Ⅱ		選択	がん専門医養成科目(第２外科学)	1
	整形外科学特論		選択	整形外科学	6
	整形外科学演習		選択	整形外科学	6
	整形外科学実習		選択	整形外科学	6
	整形外科学論文指導		選択	整形外科学	6
	整形外科専門医養成講座		選択	整形外科学	2
	リハビリテーション医学特論		選択	リハビリテーション医学	6
	リハビリテーション医学演習		選択	リハビリテーション医学	6
	リハビリテーション医学実習		選択	リハビリテーション医学	6
	リハビリテーション医学論文指導		選択	リハビリテーション医学	6
	リハビリテーション専門医養成講座		選択	リハビリテーション医学	2
	消化器内科学特論		選択	第３内科学	6
	消化器内科学演習		選択	第３内科学	6
	消化器内科学実習		選択	第３内科学	6
	消化器内科学論文指導		選択	第３内科学	6

区分	授 業 科 目	選 択	必修選択の別	担当講座等	単位数
専門領域科目（産業医学関連科目※6単位を含む30単位以上を選択）	皮膚科学特論		選択	皮膚科学	6
	皮膚科学演習		選択	皮膚科学	6
	皮膚科学実習		選択	皮膚科学	6
	皮膚科学論文指導		選択	皮膚科学	6
	皮膚科専門医養成講座		選択	皮膚科学	2
	泌尿器科学特論		選択	泌尿器科学	6
	泌尿器科学演習		選択	泌尿器科学	6
	泌尿器科学実習		選択	泌尿器科学	6
	泌尿器科学論文指導		選択	泌尿器科学	6
	泌尿器科専門医養成講座		選択	泌尿器科学	2
	がん診療体制の整備とがん診療における医療連携		選択	がん専門医養成科目（*）	1
	循環器学特論		選択	第２内科学	6
	循環器学演習		選択	第２内科学	6
	循環器学実習		選択	第２内科学	6
	循環器学論文指導		選択	第２内科学	6
	循環器専門医養成講座		選択	第２内科学	2
	腎臓学特論		選択	第２内科学	6
	腎臓学演習		選択	第２内科学	6
	腎臓学実習		選択	第２内科学	6
	腎臓学論文指導		選択	第２内科学	6
	腎臓専門医養成講座		選択	第２内科学	2
	放射線科学特論		選択	放射線科学	6
	放射線科学演習		選択	放射線科学	6
	放射線科学実習		選択	放射線科学	6
	放射線科学論文指導		選択	放射線科学	6
	放射線科専門医養成講座		選択	放射線科学	2
	放射線腫瘍学		選択	がん専門医養成科目（放射線科学）	3
	呼吸器内科学特論		選択	呼吸器内科学	6
	呼吸器内科学演習		選択	呼吸器内科学	6
	呼吸器内科学実習		選択	呼吸器内科学	6
	呼吸器内科学論文指導		選択	呼吸器内科学	6
	呼吸器内科専門医養成講座		選択	呼吸器内科学	2
	人間工学特論　※		選択	人間工学	6
	人間工学演習		選択	人間工学	6
	人間工学実習		選択	人間工学	6
	人間工学論文指導		選択	人間工学	6

区分	授 業 科 目	選 択	必修選択の別	担当講座等	単位数
専門領域科目（産業医学関連科目※6単位を含む30単位以上を選択）	脳神経外科学特論		選択	脳神経外科学	6
	脳神経外科学演習		選択	脳神経外科学	6
	脳神経外科学実習		選択	脳神経外科学	6
	脳神経外科学論文指導		選択	脳神経外科学	6
	脳神経外科専門医養成講座		選択	脳神経外科学	2
	眼科学特論		選択	眼科学	6
	眼科学演習		選択	眼科学	6
	眼科学実習		選択	眼科学	6
	眼科学論文指導		選択	眼科学	6
	眼科専門医養成講座		選択	眼科学	2
	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学特論		選択	耳鼻咽喉科学・頭頸部学	6
	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学演習		選択	耳鼻咽喉科学・頭頸部学	6
	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学実習		選択	耳鼻咽喉科学・頭頸部学	6
	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学論文指導		選択	耳鼻咽喉科学・頭頸部学	6
	耳鼻咽喉科専門医養成講座		選択	耳鼻咽喉科学・頭頸部学	2
	麻酔科学特論		選択	麻酔科学	6
	麻酔科学演習		選択	麻酔科学	6
	麻酔科学実習		選択	麻酔科学	6
	麻酔科学論文指導		選択	麻酔科学	6
	麻酔科専門医養成講座		選択	麻酔科学	2
	緩和ケアの基本概念と実践		選択	がん専門医養成科目(麻酔科学)	3
	産科婦人科学特論		選択	産科婦人科学	6
	産科婦人科学演習		選択	産科婦人科学	6
	産科婦人科学実習		選択	産科婦人科学	6
	産科婦人科学論文指導		選択	産科婦人科学	6
	臨床腫瘍診断学		選択	がん専門医養成科目(産科婦人科学)	0.5
	小児科学特論		選択	小児科学	6
	小児科学演習		選択	小児科学	6
	小児科学実習		選択	小児科学	6
	小児科学論文指導		選択	小児科学	6
	小児科専門医養成講座		選択	小児科学	2
	救急医学特論		選択	救急・集中治療医学	6
	救急医学演習		選択	救急・集中治療医学	6
	救急医学実習		選択	救急・集中治療医学	6
	救急医学論文指導		選択	救急・集中治療医学	6
	救急科専門医養成講座		選択	救急・集中治療医学	2
	がん治療の基本原則Ⅱ		選択	がん専門医養成科目（*）	2
	各種がんの治療		選択	がん専門医養成科目（*）	2
	がんの生命倫理、法的経済的問題、心理社会的側面		選択	がん専門医養成科目（*）	2

※　指定科目（産業医学関連科目）

＊ 九州がんプロコーディネーター

研究指導計画書（実施経過・実績報告書）

提　出　日	令和　　年　　月　　日
学 生 番 号	年次
学 生 氏 名	自署または押印
指導教授名	自署または押印

指導教授、学生が両名で確認し、
チェック（☑）を入れてください。

□	学生確認	令和	年	月　　日

（基準日：令和８年４月１日）

年次等		研　究　指　導　計　画		実 施 経 過・実 績 報 告	
		履修予定授業科目	研究指導計画	研究実施経過 （研究指導計画に沿って、進捗状況、実績、成果等を記載）	指導教員の意見 （学生の取組み状況、指導内容等を記載）
１年次	前期	1)	1)	1)	1)
	後期				

項目番号は、・，・，…　ではなく、
1)，2)，…と統一し、左を揃えてください。

MS 明朝体・１０ｐｔで作成

年次等		研　究　指　導　計　画		実 施 経 過・実 績 報 告	
		履修予定授業科目	研究指導計画	研究実施経過 （研究指導計画に沿って、進捗状況、実績、成果等を記載）	指導教員の意見 （学生の取組み状況、指導内容等を記載）
2年次	前期				
	後期				
3年次	前期				
	後期				
4年次	前期				
	後期				

学位申請する時、最終版（紙媒体・押印があるもの）を併せて提出してください。

在学５年目以降（長期履修・在学延長の期間）は、４年次の下に欄を追加し、それぞれ「４年次(長)」・「４年次(在)」と記載して作成してください。

※英語での表記も可

【記 入 例】

４月１日を基準に作成してください。

研究指導計画書（実施経過・実績報告書）

提出日を記入

提 出 日	令和	8	年	5	月	5	日		
学 生 番 号		２５３０９９						1	年次
学 生 氏 名		産業　太郎							自署または押印
指導教授名									自署または押印

委託先ではなく指導教授名

最終版提出時には自署または押印し、印刷して提出してください。

指導教授、学生が両名で確認し、チェック（☑）を入れてください。

☑	学生確認	令和	8	年	5	月	1	日

（基準日：令和８年４月１日）

年次等		研究指導計画		実施経過・実績報告	
		学生主作成 履修予定授業科目	教員主作成 研究指導計画	学生主作成 研究実施経過 （研究指導計画に沿って、進捗状況、実績、成果等を記載）	教員主作成 指導教員の意見 （学生の取組み状況、指導内容等を記載）
1年次	前期	1) 産業医学研究基盤コース（1年次・全コース必修・2単位） 2) 医学研究概論（1年次・15コマ選択必修・2単位） 3) 産業医学特論※（1年次・全コマ必修・1単位） 4) 医学英語特別コース（1年次・9コマ選択必修・1単位） 5) 専門領域科目（●●学演習）	1) 研究テーマの設定に関する助言指導：●●おける課題を考慮してテーマを設定する。 2) 研究内容および実験計画の立案に関する助言指導：研究に必要な研究法として●●を用いた●●を指導する。 3) 抄読会などに参加させ、関連する分野のトピック、[illegible]カンファで[illegible]設計、論述、[illegible]指導する。 4) 研究設備・機器等使用法の実地指導：●●するために[illegible]な実験方法に[illegible] 5) ●●に関する[illegible]実験方法に[illegible]	1) 指導教員と相談のうえ、研究テーマを「●●」と設定した。 2) 研究内容を具体化するために、関連分野の研究上に関する情報検索法を学習し、●●に関する論文や●●に関する論文等を収集した。 3) 研究に必要な研究法として、●●の抽出・●●[illegible]法を学習し、１人で実行[illegible]習得した。[illegible]を策定する前段階とし[illegible]による予備実験とし[illegible]●する実験を開始した。	1) 将来の専門性を活かした研究となるように学生の希望に沿う形で研究テーマの助言を行った。 2) 研究課題に関連する論文、情報につき助言を行った。 3) 細胞培養、研究手法の基本的事項について、指導を行った。 4) 研究で使用する●●薬の供[illegible]解[illegible]取り組んだ。 6) 実験ごとの結果のバラツキがみられ、適切な実験条件の設定に少し苦労した。
	後期		6) 得られたデータの解釈、課題から実験の方向性を指導する。 7) ●●を指導する。 8) ●●し、実験を反復することで統計学的意義を検討する。 9) 関連学会・研究会等に参加させ、当該分	5) ●●[illegible]●●[illegible] 6) 手技確立後、●●の実験を行った。 7) ●●を検討する研究内容を具体化するため、関連分野の研究上に関する情報等を収集し、研究戦略の設計を行った。	[illegible]し、安定し[illegible]るようになった。 8) 解析に必要なツールについて積極的に学んでいた。 9) 得られた結果から新たな仮

項目番号は、・，・，…　ではなく、1)，2)，…と統一し、左を揃えてください。

過去形で記載してください

MS 明朝体・１０ｐｔで作成

前期・後期とおしての計画の場合は、罫線を削除してください。

実施経過・実績報告は、年次終了時点（昨年度末まで）の内容を記入してください。今年度以降は、記入不要です。内容については、指導教員と相談のうえ記入してください。

学生主作成　　教員主作成

年次等		研究指導計画		実施経過・実績報告	
		履修予定授業科目	研究指導計画	研究実施経過 （研究指導計画に沿って、進捗状況、実績、成果等を記載）	指導教員の意見 （学生の取組み状況、指導内容等を記載）
			野の視野を広げさせる。 10）抄読会や週に１回のカンファ等における述、う。	8）●●の模索・評価実験を行い●●のみでなく、●●と●●の組み合わせが最も●●を誘導することを確認した。 9）●●の関与を検討する評価方法として●●における●●の発現に着目し●●を用いた●●発現評価を行った。	説を設定し、さらに必要な実験について助言した。 10）研究で使用する●●の供与について申請手続を継続した。 11）新たな●●の評価として●●の検討を追加した。
２年次	前期	1）●●学演習 2）●●学実習 3）●●論文指導 4）未履修授業受講	1）上記２，４，５)を継続 2）実験等データから得られた知見をもとに研究の方向性を再度設定する。 3）実験に必要な●●について●●の提供を依頼する。 4）研究結果のまとめ方と考察、プレゼンテーションに関する指導を行う。 5）関連学会・研究会等で成果を発表させ、他研究者との討論を通して、見識と技量を磨かせる。	1）●●を調べるため、●●を評価した。 2）●●とは異なる動態を呈していることを確認した。 3）●●を用いて●●に関連する●●を測定し、●●の実験を開始した。 4）●●以外の●●を用いて●●を測定し、●●間で阻害活性に差があることを確認した。	1）実験系が安定し、●●データの再現性が得られるようになった。 2）●●の関与が示されつつあり、より選択性のある●●の供与について申請手続を継続した。 3）海外からの招待演者との議論を通じて、先端的研究のレベルを認識できていた。
	後期		6）この●●研究会でプレゼンテーションを行い、当該分野の理解と技量を磨かせる。 7）●●による●●発現などから検討する。 8）2)に関する●●による影響を検討する。 9）●●を検討して実験条件を設定する。 10）上記について、●●との関連について検討する。 11）上記で得られた結果から論文化にむけて、再度実験計画を策定する。	6）●●研究会で●●の発現を検討した。●●の発現を検討し、●●が●●に与える影響を検討した。 7）●●が異なることから●●に与える影響が大きく、かつ●●の阻害選択性の差が明らかである●●に着目し、●●を検討した。 8）●●を用いて、●●により誘導される●●の効果を検討した。いずれも●●の発現は保持されたが、●●の発現は保持されたことから、●●の可能性が考えられた。	4）得られた結果をもとに、研究計画を再考した。 5）●●と●●の可塑性にも着目するように指導した。 6）実験系の安定を得るためにさらに意欲的に取り組んでいた。 7）研究結果をまとめて、論文化に向けて構想を議論した。 8）論文化に向けて、追加すべき実験を指導した。
３年次	前期	1）●●学演習 2）●●学実習 3）●●学論文指導	1）上記２年次の２，３，５，６)を継続実施 2）●●の解析を用いて検討する。 3）●●学会など関連学会・研究会等で成果を発表させ、他研究者との討論を通して、見識と技量を磨かせる。		
	後期		4）データの整備を進めるとともに、論文の素稿作成に着手する。 5）●●の解析について指導する。		

「研究指導計画」は全学年分を記入してください。

・通し番号は学年ごと
・「研究指導計画」と「研究経過・実績報告」の番号を一致させる必要はありません。

学位申請する時、最終版（紙媒体・押印があるもの）を併せて提出してください。

年次等		研究指導計画		学生主作成 実施経過・実績報告	教員主作成
		履修予定授業科目	研究指導計画	研究実施経過 （研究指導計画に沿って、進捗状況、実績、成果等を記載）	指導教員の意見 （学生の取組み状況、指導内容等を記載）
4年次	前期	1)　●●学論文指導	1)　論文校閲を経て、論文最終稿作成を指導する。 2)　投稿雑誌を決め、on-line システムで論文投稿を指導する。		
	後期		3)　リバイス実験を行い再投稿する。 4)　論文受理 5)　学位論文審査に係る[illegible]る。		

在学５年目以降（長期履修・在学延長の期間）は、４年次の下に欄を追加し、それぞれ「４年次(長)」・「４年次(在)」と記載して作成してください。

※英語での表記も可

■研究指導計画書作成に係る留意事項■

１．記載内容について

(1) 「記入例」のコピペ厳禁。（コピペと判断された場合および個人の内容に沿っていない場合は全て書き直しとなる。）

(2) 毎年度、前期授業履修開始時までに、研究指導計画書を作成する。

(3) 「研究指導計画」は全学年分を記入する。

(4) 「実施経過・実績報告」は前年度末までの内容を記入する。

(5) 「履修予定授業科目」、「研究実施経過」は大学院生が記入する。

(6) 「研究指導計画」、「指導教員の意見」は原則として指導教員（指導教授）が記入する。

(7) 記載内容については、大学院生と指導教員が十分な打合せを行い、両名の合意を得るものとする。

(8) 定期的に実施経過を確認し合い、必要に応じて計画の修正・変更を行い、次年度の研究指導計画書に反映させる。

２．提出方法

(1) 毎年５月（指定日）までに研究科長に提出する。（Word 形式：提出先　教務課大学院係宛　kyomu@mbox.pub.uoeh-u.ac.jp）

(2) 学位申請時には、すべてを記入した最終版を併せて提出する。（紙媒体（自署または押印））：提出先　教務課大学院係）

3　学位申請

3-1.　課程修了による学位授与の申請について（甲号）…… 56
3-1-1.　申請資格…… 56
3-1-2.　受付期間…… 56
3-1-3.　申請…… 56
3-1-4.　論文の受理…… 56
3-1-5.　論文審査、最終試験…… 56
3-2.　早期修了について…… 58
3-2-1.　申請資格…… 58
3-2-2.　受付期間…… 58
3-3.　論文提出による学位授与の申請について（乙号）…… 59
3-3-1.　申請資格…… 59
3-3-2.　研究歴…… 59
3-3-3.　受付期間…… 59
3-3-4.　申請…… 59
3-3-5.　論文の受理…… 60
3-3-6.　論文審査、最終試験…… 60
3-4.　論文提出による学位授与申請者に対する外国語試験…… 62
3-4-1.　受験資格…… 62
3-4-2.　出願期間…… 62
3-4-3.　出願手続…… 62
3-4-4.　試験科目…… 63
3-4-5.　合格発表…… 63

[付録 7]　研究機関の認定及び研究歴の算出基準に関する内規…… 64
[付録 8]　論文提出による学位授与申請者の外国語試験に関する内規…… 65
[付録 9]　学位論文審査方法等の取扱いに関する申合せ…… 67

3-1. 課程修了による学位授与の申請について（甲号）

3-1-1. 申請資格

課程修了による学位授与申請者（甲号申請者）は、次のいずれかに該当する資格を有している必要があります。

1 大学院に３年以上在学し、４年終了までに 36 単位以上を修得、又は修得する見込みがあること。
2 大学院に４年以上在学して 36 単位以上を修得し、引き続き在学中であること。

3-1-2. 受付期間

最終学年の**６月１日から 12 月 21 日**までとします。在学延長者は**随時受付**をします。

3-1-3. 申請

1 甲号申請者は、次のページに記載している「学位申請の手続き等（甲）」に記載された書類を、担当指導教授を経て、申請期間内に教務課へ提出してください。
申請書類はすべて本学ホームページに掲載していますので、申請時にダウンロードして使用してください。「学位申請の手続き等（甲）」の注意事項をよく読んで記載してください。

トップページ >教職員専用イントラサイト > 学内様式集 > 大学院 https://intra.pub.uoeh-u.ac.jp/intra/yosiki/daigakuin.html

2 申請の際には、学位申請書類の他に、以下のものを教務課へ提出してください。
①論文要旨（様式第２号）/Word データ　②論文目録（様式第３号）/Word データ
③学位論文/PDF データ　…以上３点は、メールに添付して提出
④履修手帳
⑤研究指導計画書（自署または押印した紙媒体・最終版）

3-1-4. 論文の受理

学位授与申請は月末にとりまとめ、翌月の医学専攻主任会議、医学専攻委員会を経て受理します。

論文の審査は、専攻委員会に設けられた学位論文審査委員会（審査委員会）において行い、審査委員会は通常３名の審査委員をもって組織されます。審査委員の互選により１名を主査、他を副査とします。学位論文公開審査会（審査会）の開催日時、場所等については開催２週間前までに公示します。

3-1-5. 論文審査、最終試験

審査会は公開し、研究発表は１人当たり 15 分程度とします。

審査会の司会は主査が行いますので、発言は司会者の指示に従ってください。

審査会では、甲号申請者に対して論文の審査のほか、最終試験を行います。最終試験は、論文に関連のある分野について口頭又は筆記により行います。

審査結果は医学専攻主任会議、医学専攻委員会を経て最終決定されます。「合格」と認定された者については、学位記授与式において学位記を授与します。

学位申請の手続き等（甲）

申請書類	部数	注意事項
学位申請書 様式第１号（甲）	１部	**申請日（右上の日付）は記入しない**こと。 事務的な確認後に記入となる。
学位論文（別刷）	５部 （＊）	①権威ある内外の学術誌に公表されたもの。 ②共著論文の場合は、筆頭著者であること。 ③掲載受理証明書があれば、原稿でも可。 ④学位論文に補足情報（supplementary information）がある場合は、学位論文に添付すること。 ⑤論文審査合格後、国会図書館、本学図書館及び大学院保管用として別途別刷りを３部（計８部）提出すること。
論文要旨 様式第２号	５部 （＊）	①日本語、横書きで作成すること。 ②指導教授と十分打ち合わせること。 ③研究の目的、方法、結果、考察、結論の順に記入のこと。 ④日本語で**A4用紙1枚（1500 字程度）**にまとめて記入すること。 ⑤題名が欧文の場合（ ）書で和訳を付すこと。
論文目録 様式第３号	５部 （＊）	①欧文の場合（ ）書で和訳を付すこと。 ②共著の場合、著者名は全員記載すること。共著者名等のスペル誤りが多いので注意すること。 **書式は変更しないこと。** ③参考論文は**必ず1編以上記載**すること。 ④学位論文及び参考論文の著者名は省略しないこと。また、自身の名前に下線を引くこと。
参考論文（別刷）	各５部 （＊）	①学位論文の内容を補足するため、自己の研究成果を表明できるもの。 ②参考論文は**1編以上で、論文目録に記載したものの別刷は全て提出すること。** ③別刷がなければ、コピー可。 ④筆頭著者でなくてもよい。
履歴書 様式第４号	１通	大学入学から記載。本学の産業医学修練医（前期課程）、産業医学修練医（後期課程）の名称には注意すること。 出向・派遣歴も記載すること。
単位修得証明書 又は 単位修得見込証明書	１通	教務課　大学院係に交付申請すること。
承諾書 （共著論文の場合） 様式第５号	各１通	共著者の分担部分について簡潔に記載してもらうこと。 共著者の住所は勤務先住所ではなく、**現住所を記載**してもらうこと。
報告書 （共著論文の場合） 様式第６号	１通	申請者が学位論文につき、自己の担当部分について、記入すること。学位論文作成の中心的役割を果たしたことを詳細に記入のこと。
掲載受理証明書 （未公表論文の場合）	１通	学位論文が未公表の場合のみ必要。（コピー可）
学位論文に関する 宣誓書 様式第７号	１通	

申請書類	部数	注意事項
学位申請時のチェックリスト	1通	
掲載誌のインパクトファクター	1通	Journal Citation Reports(JCR)提供の該当部分（直近２年）を提出すること ※インパクトファクターが 2.0 未満の場合は事前審査 (ただし社会医学系雑誌、日本医学会分科会の欧文の機関誌を除く)

＊（委託の場合は６部）

・ インパクトファクターは産業医科大学図書館＞データベース＞インパクトファクター（Journal Citation Reports（JCR））から確認が可能。（学内ネットワーク接続時のみ）
(URL) https://www.lib.uoeh-u.ac.jp/drupal/ja/database#2

3-2. 早期修了について

「3-1. 課程修了による学位授与の申請について（甲号）」の「申請資格」に関わらず、学業成績が優秀で、優れた研究業績をあげた者については、早期修了申請することが可能です(※)。
※詳細については、教務課へご相談ください。

3-2-1. 申請資格

大学院に 2 年 6 月以上在学し、3 年終了までに 36 単位を修得し、又は修得する見込みがあること。

3-2-2. 受付期間

３年次の 10 月 1 日から 11 月 30 日までとします。

3-3. 論文提出による学位授与の申請について（乙号）

3-3-1. 申請資格

論文提出による学位申請者（乙号申請者）は、本学が行う外国語試験に合格していなければなりません。

ただし、本学大学院に所定の期間在学し、所定の単位を修得したのみで退学した者（単位修得後退学者）が、退学後 2 年以内に学位の申請をしようとするときは、外国語試験を免除することができます。

また、乙号申請者は次のいずれかに該当する資格を有している必要があります。

1　大学において医学又は歯学の課程を修了した者で、基礎医学においては 5 年以上、臨床医学においては 6 年以上の研究歴を有するもの
2　前号の学部以外の卒業者又は大学卒業者と同等以上の学力を有すると認められる者で、7 年以上の研究歴を有するもの
3　大学院に 4 年以上在学し所定の単位を修得したのみで課程を修了することなく退学した者

これに加えて、次のいずれかに該当している必要があります。

1　本学の卒業者
2　本学の専任職員（産業医学修練医、歯科研修医及び専修医を含む）
3　本学の研究生又は派遣研究員の期間が 1 年以上あるもの

3-3-2. 研究歴

「申請資格」に定めている研究歴は次に該当する期間をいいます。

1　大学の専任職員として研究に従事した期間
2　大学院に在学した期間
3　大学の研究生等として研究に従事した期間
4　大学の附属病院等において産業医学修練医等として研究に従事した期間
5　研究科委員会が認める権威ある病院及び研究所その他の研究施設において専任職員として研究に従事した期間
6　本学のキャリア形成プログラムの契約締結期間
7　研究科委員会が前各号と同等以上と認める機関において研究に従事した期間

3-3-3. 受付期間

乙号申請者は、随時申請することができます。

3-3-4. 申請

1　乙号申請者は、以下の書類を学位論文に推薦する本学大学院の指導教授を経て、教務課へ提出してください。
申請書類はすべて本学のホームページに掲載していますので、申請時にダウンロードして使用してください。「学位申請の手続き等（乙）」をよく読んで記載してください。

2　申請の際には、学位申請書類の他に、以下のものを教務課へ提出してください。
①論文要旨（様式第２号）/Word データ　②論文目録（様式第３号）/Word データ
③学位論文/PDF データ　…以上３点は、メールに添付して提出

3-3-5. 論文の受理

甲号と同様です。

3-3-6. 論文審査、最終試験

審査会は公開し、研究発表は１人当たり 15 分程度とします。

審査会の司会は主査が行いますので、発言は司会者の指示に従ってください。

審査会では、乙号申請者に対して論文の審査のほか、課程修了者と同等以上の学力を有することを確認するための試問を行います。試問は、外国語、専門分野全般及び論文に関連のある分野について口頭又は筆記により行います。

審査結果は医学専攻主任会議、医学専攻委員会を経て最終決定されます。「合格」と認定された者については、学位記授与式において学位記を授与します。

学位申請の手続き等（乙）

申請書類	部数	注意事項
学位申請書 様式第１号（乙）	１部	**申請日（右上の日付）は記入しない**こと。 事務的な確認後に記入となる。
学位論文（別刷）	５部	①権威ある内外の学術誌に公表されたもの。 ②共著論文の場合は、筆頭著者であること。 ③掲載受理証明書があれば、原稿でも可。 ④学位論文に補足情報(supplementary information)がある場合は、学位論文に添付すること。 ⑤論文審査合格後、国会図書館、本学図書館及び大学院保管用として　別途別刷りを３部（計８部）提出すること。
論文要旨 様式第２号	５部	①日本語、横書きで作成すること。 ②指導教授と十分打ち合わせること。 ③研究の目的、方法、結果、考察、結論の順に記入のこと。 ④日本語で**A4用紙1枚 1500 字程度**にまとめて記入すること。 ⑤題名が欧文の場合（ ）書で和訳を付すこと。
論文目録 様式第３号	５部	①題名が欧文の場合（ ）書で和訳を付すこと。 ②共著の場合、著者名は全員記載すること。共著者名等のスペル誤りが多いので注意すること。**書式は変更しないこと。** ③参考論文は**必ず1編以上記載**すること。 ④学位論文及び参考論文の著者名は省略しないこと。 また、自身の名前に下線を引くこと。
参考論文（別刷）	各５部	①学位論文の内容を補足するため、自己の研究成果を表明できるもの。 ②参考論文は**1編以上で、論文目録に記載したものの別刷は全て提出すること。** ③別刷がなければ、コピー可。 ④筆頭著者でなくてもよい。
履歴書 様式第４号	１通	大学入学から記載。本学の産業医学修練医（前期課程）、産業医学修練医（後期課程）の名称には注意すること。出向・派遣歴も記載すること。
承諾書 様式第５号 （共著論文の場合）	各１通	共著者の分担部分について簡潔に記載してもらうこと。共著者の住所は勤務先住所ではなく、**現住所を記載**してもらうこと。

申請書類	部数	注意事項
報告書 様式第６号 （共著論文の場合）	１通	申請者が学位論文につき、自己の担当部分について、記入すること。学位論文作成の中心的役割を果たしたことを詳細に記入のこと。
掲載受理証明書	１通	**学位論文が未公表の場合のみ**必要。（コピー可）
推薦書 様式第８号	１通	
外国語試験合格証明書	１通	
研究歴証明書	各１通	研究機関の研究従事証明書。 本学において教員等の勤務がある方は、人事課の発行する「在職期間証明書」で可。
卒業証明書又は卒業証書の写し	１通	
論文審査手数料領収書の写し	１通	学位論文が受理されてから振込用紙を所属講座経由で送付する。申請時には必要なし。
医師免許証の写し （医師のみ）	１通	
住民票記載事項証明書	１通	
学位論文に関する 宣誓書 様式第７号	１通	
学位申請時のチェックリスト	１通	
掲載誌のインパクトファクター	１通	Journal Citation Reports(JCR)提供の該当部分（直近２年）を提出すること ※インパクトファクターが 2.0 未満の場合は事前審査 (ただし社会医学系雑誌、日本医学会分科会の欧文の機関誌を除く)

3-4. 論文提出による学位授与申請者に対する外国語試験について

3-4-1. 受験資格

学位論文を推薦する本学大学院の指導教授が試験合格後３年以内に学位論文の提出が可能であると認めた者。

3-4-2. 出願期間

毎年計２回実施しています。第１回、第２回ともに大学院入学者選抜と同日に実施しますので、ホームページ等をご確認ください。外国人志願者は、事前に教務課 大学院係にお問合せください。

3-4-3. 出願手続

以下の①～④の出願書類を教務課へ提出してください。

募集要項・出願書類等は教務課にありますので、窓口にて受付をして、受取ってください。

① 外国語試験受験願・受験票及び受験写真票

氏名、生年月日等を記入し、それぞれに写真（縦４㎝×横３㎝）をはがれないように貼付してください。また、外国語試験受験願には、本学の指導教授（医学専攻）の署名・押印が必要です。

＊受験願の「学歴及び職歴」欄については、研究歴証明書・在職期間証明書等を参照のうえ、正確かつ詳細に記載してください。

「学歴及び職歴」の欄の記入例

学歴及び職歴（学歴は、大学(学部)卒から記入）	
年　月　日	事　　項
	学　　歴
平成 15 年 3 月　日	産業医科大学　医学部　医学科　卒業
	職　　歴
平成 15 年 6 月 1 日	産業医科大学　産業医学修練医（臨床研修医）（○○科）に採用
平成 17 年 6 月 1 日	同　上　　産業医学修練医（専門修練医）（○○科）に採用
平成 21 年 6 月 1 日	□□□□□（株）産業医に採用
	現在に至る
	出向・派遣歴
	◇◇◇病院出向（平成○年○月○日～平成○年○月○日）
	△△△病院派遣（平成○年○月○日～平成○年○月○日）
	非常勤助教歴
	産業医科大学 ○○学 非常勤助教（平成○年○月○日～現在に至る）

② 連絡受信先（志願者住所、氏名を記入）及び受験票返送用切手（４１０円分）
受信先が学内の場合は、所属講座等の名称を記入してください。この場合、切手は不要です。

③ 外国語試験料　３０，０００円
試験料は、下記銀行口座へ振り込みのうえ、振込書控（写し可）を外国語試験受験願裏面の貼付欄に貼付してください。
一度振り込まれた試験料は、いかなる理由があっても返還しません。

④ 研究歴証明書
本学卒業生は、人事課が発行する在職期間証明書もあわせてご提出ください。

3-4-4. 試験科目

英語の筆記試験（外国人受験者は、簡単な日本語試験も行います。）
辞書の持込みは可とします。（電子辞書・ウェアラブル端末等の電子機器類の持込みは不可）

3-4-5. 合格発表

合格者には、外国語試験合格証明書を送付します。この合格通知書は、学位申請（乙号）の際の提出書類となりますので、大切に保管してください。合格から３年間有効です。
不合格者にはその旨通知します。

［付録 7］研究機関の認定及び研究歴の算出基準に関する内規

昭和 62 年７月 29 日研究科委員会内規第４号

改正

昭和 63 年３月 24 日
平成９年７月９日
平成 19 年３月 30 日
平成 27 年３月 30 日
令和５年２月 24 日

（目的）

第１条　この内規は、産業医科大学学位規程（昭和 60 年規程第 12 号）第 19 条の規定に基づき、学長が認める権威ある病院及び研究所その他の研究施設並びに研究歴の算出基準等について定めることを目的とする。

（研究施設）

第２条　学長が認める権威ある病院及び研究所その他の研究施設とは、次の各号に掲げるものをいう。

（１）　文部科学省所轄の研究機関
（２）　国立大学法人の附置研究所
（３）　厚生労働省所轄の研究所
（４）　厚生労働省附属機関研究所
（５）　厚生労働省が所管する独立行政法人の病院
（６）　厚生労働大臣の指定する臨床研修指定病院
（７）　外国の医科大学及びその附属研究所
（８）　外国政府直轄の研究機関

（研究機関の認定）

第３条　前条に規定する研究施設以外の機関等については、研究科委員会が申請ごとに当該機関の研究及び診療水準並びに学位授与申請者の業績を審査し、学長が認定するものとする。

（研究歴）

第４条　研究歴の算出については、次の各号に掲げる基準に基づき、研究科委員会が学位授与申請者の経歴及び業績を審査し、学長が認定するものとする。

（１）　大学の専任職員（産業医学修練医等を含む。）として研究に従事した期間及び本学から他の病院等に出向又は派遣されて研究に従事した期間はその全期間を研究歴とする。
（２）　大学院に在学した期間は、その全期間を研究歴とする。
（３）　大学の研究生等として研究に従事した期間は、その全期間を研究歴とする。ただし、研究態様が常態的でない研究生等については、その２分の１を研究歴とする。
（４）　第２条に規定する研究科委員会が認める権威ある病院及び研究所その他の研究施設において専任職員として研究に従事した期間は、その全期間を研究歴とする。
（５）　前条に規定する研究科委員会が同等以上と認める機関において専任職員として研究に従事した期間は、その全期間を研究歴とする。
（６）　本学のキャリア形成プログラム契約の締結者については、その全期間を研究歴とする。
（７）　第１号、第４号及び第５号に規定する施設以外の施設の専任職員であって、本学の非常勤助教として委嘱された者については、その委嘱期間の３分の２を研究歴とする。

２　前項各号のいずれにも該当しない場合において、学位授与申請者のうち、顕著な研究業績を挙げたと認められる期間があるときは、学長は研究科委員会の意見を聴いたうえで、その期間の２分の１を限度として研究歴とすることができる。

（研究歴の算出基準）

第５条　研究歴が基礎医学及び臨床医学の双方にわたるものがあるときは、次に掲げる基準に基づき、研究歴を算出するものとする。

（１）　基礎医学で申請する場合　基礎医学の研究歴＋臨床医学の研究歴×６分の５
（２）　臨床医学で申請する場合　臨床医学の研究歴＋基礎医学の研究歴×５分の６

［付録 8］ 論文提出による学位授与申請者の外国語試験に関する内規

昭和 62 年 7 月 29 日研究科委員会内規第５号

改正

平成３年４月１日
平成９年７月９日
平成27年３月30日

（目的）

第１条　この内規は、産業医科大学学位規程（昭和60年規程第12号）第19条の規定に基づき、論文提出による学位授与申請者に係る外国語試験（以下「試験」という。）の実施に関し必要な事項を定めることを目的とする。

（実施方法等の決定）

第２条　試験は、10月及び２月の年２回実施することとし、実施方法、日時、出願期間等については、研究科委員会の意見を聴いたうえで、学長が定める。

２　試験の実施方法、日時、出願期間等については、試験実施の２月前に公示する。

（試験実施の付託）

第３条　研究科委員会は、試験の実施を主任会議に付託するものとする。

（主任会議の業務）

第４条　前条により試験実施の付託を受けた主任会議は、試験の実施に関し、次の各号に掲げる業務を行う。

（１）　試験問題の作成に関する事項
（２）　試験の実施に関する事項
（３）　合格者の選考に関する事項
（４）　その他試験の実施に関する必要な事項

（試験科目）

第５条　試験科目（以下「科目」という。）は、英語とする。ただし、外国人で日本語の能力を判定する必要があると認められたものについては、初歩的な日本語の試験を課すものとする。

２　試験は、筆記により行うものとする。ただし、前項ただし書の日本語については、口頭により行うものとする。

（受験資格）

第６条　試験は、学位論文を推薦する本学大学院の指導教授（以下「指導教授」という。）が試験合格後３年以内に学位論文の提出が可能であると認めた者のみ受験することができる。

（出願）

第７条　学位授与申請者は、指導教授の承認を得たうえで、外国語試験受験願（様式第１号）を、学長に提出しなければならない。

（試験結果の報告）

第８条　主任会議は、試験の結果を研究科委員会に報告しなければならない。

（合否の判定）

第９条　試験の合否の判定は、前条の結果報告に基づき、研究科委員会の意見を聴いたうえで、学長が決するものとする。

２　前項の判定は、各科目ごとに行い、100点法により60点以上を合格とする。

（合格判定の有効期間）

第10条　前条により合格した科目の判定は、合格発表の日から３年間有効とする。

（合格証明書）
第11条　合格した科目には、外国語試験合格証明書（様式第２号）を交付する。
（その他）
第12条　この内規に定めるもののほか、試験に関し必要な事項は、研究科委員会の意見を聴いたうえで、学長が定める。

附　則

この内規は、昭和62年８月１日から施行する。

附　則（平成３年４月１日）

この内規は、平成３年４月１日から施行する。

附　則（平成９年７月９日）

この内規は、平成９年８月１日から施行する。

附　則（平成27年３月30日）

この内規は、平成27年４月１日から施行する。

［付録 9］　学位論文審査方法等の取扱いに関する申合せ

昭和 63 年 7 月 13 日研究科委員会申合せ第 8 号

１　学生が、申請期限を過ぎて学位の授与を申請し、学年末を越えて審査に合格した場合の取扱いについて

（１）　学生が、やむをえない事由により申請期限を過ぎて学位の授与を申請し、学年末までに審査が終了しなかった者は、次学期以降も引き続き在学し、その後、審査に合格した者の学位授与の日付は、審査に合格した日以降とし、学長が定める。

（２）　指導教授は、申請期限に間に合うよう学位論文の作成等を指導しなければならない。

２　（削除）

３　論文提出による学位授与申請者に対する外国語試験の問題について

論文提出による学位授与申請者に対する外国語試験は、大学院入学試験の問題と同一の問題により実施するものとする。

４　学生の指導教授が学位授与申請時に欠員となっている場合の指導教授選任について

学生の指導教授が学位授与申請時に欠員となっている場合の指導教授選任については、次によるものとする。

イ　当該学生が研究指導の委託により、実際に委託先の指導教授の下で研究指導を受けている場合は、その委託先の指導教授を当該学生の指導教授とする。

ロ　当該学生が研究指導等の委託により実際に委託先の指導教授の下で研究指導を受けていない場合は、当該学生の指導教授を旧同一専攻系の中から主任会議で選考のうえ、医学専攻委員会に報告し、その儀を経た後、研究科委員会に報告しなければならない。学長は、研究科委員会の意見を聴いたうえで、指導教授を選任する。

５　論文提出による学位授与申請者の指導教授選任の取扱いについて

論文提出による学位授与申請者の論文を推薦する医学専攻の指導教授が欠員その他の理由でいない場合は、当該申請者の学位論文を推薦する指導教授を主任会議で選考のうえ、医学専攻委員会に報告し、その儀を経た後、研究科委員会に報告しなければならない。学長は、研究科委員会の意見を聴いたうえで、指導教授を選任する。

６　在学延長者の学位授与日に関する取扱いについて

在学延長者の学位授与の日付は、原則として論文審査に合格した日以降とし、学長が定めるものとするが、論文提出の時期により次のとおり取り扱うことができるものとする。

（１）　在学延長者が５月 31 日までに論文を提出し、９月の審査に合格した場合は、その者の学位授与の日付は当該年度９月開催の学位記授与式の日とする。

（２）　在学延長者が 11 月 30 日までに論文を提出し、３月の審査に合格した場合は、その者の学位授与の日付は当該年度の３月開催の学位記授与式の日とする。

７　論文審査について医学専攻委員会において重大な問題が提起されたときの取扱について

論文審査について医学専攻委員会において重大な問題が提起されたときは、主任会議に諮問するものとする。

８　学位論文及び最終試験又は試問の合否判定における議長の投票の取扱いについて

学位論文及び最終試験又は試問の合否判定においては、議長は投票しないこととする。ただし、投票数が合格及び不合格とも同数の場合には議長の決定投票により決するものとする。

９　学位論文及び最終試験又は試問の合否判定における白票の取扱いについて

学位論文及び最終試験又は試問の合否判定における白票は、有効投票とする。

10　論文提出による学位授与申請者が提出する学位論文の体裁について

論文提出による学位授与申請者が提出する学位論文は、未公表の場合は、校正刷とする。

11　（削除）

12　事前審査について

（１）　研究科委員会は産業医科大学学位規程第７条に規定する学位論文の審査に際し、次の各号のいずれかに該当する場合は、事前審査会（以下「審査会」という。）において事前審査を行う。

①　当該学位論文の掲載雑誌のインパクトファクターが 2.0（社会医学系は 1.0）未満の場合（ただし、日本医学会分科会の欧文の機関誌は除く。）

②　当該学位論文が発刊後４年を超える場合

（２）　インパクトファクターは、直近の２年を対象とし、２年とも上記の基準に満たない場合に事前審査を行う。

（３）　審査会は、主任会議委員で構成する。

（４）　審査会に議長を置き、医学専攻委員長をもって充てる。

（５）　審査方法は次のとおりとする。

①　学位申請時に、申請者と指導教授の連名による「理由書」（当該論文の雑誌投稿の経緯や雑誌選定の説明等を含む）の提出を要請する。

②　審査会委員へ事前に理由書および学位論文を配付する。

③　各委員は、論文内容等を吟味のうえ、当該審査会において資格の有無を審議する。

④　審査会で質問が生じた場合には、申請者あるいはその指導教授に主任会議への出席および質問への回答を要請する（申請者あるいは指導教授は応召まで待機する）。

⑤　基本的には、全員の意見をまとめていくことが望ましいが、意見が分かれる場合は、議長を除く審査会委員の無記名投票で決定することとし、3 分の 2 以上の賛成で学位論文審査委員会の審査に付することとする。

⑥　審査会の委員が関与する学位論文については、当該委員は審査会への出席は不可とする。

（６）　上記の基準にかかわらず、医学専攻委員長が必要と判断した場合は、事前審査会に諮問することができる。

13　早期修了者にかかる学位授与審査基準について

産業医科大学学位授与審査内規第２条第２項により学位を得ようとする場合は、当該申請者の学位論文がインパクトファクター5.0 以上の学術誌に掲載される場合に限るものとする。

附　則

この申合せは、昭和 62 年 10 月 14 日から施行する。

附　則

この申合せは、昭和 63 年７月 13 日から施行する。

附　則

この申合せは、平成３年２月 13 日から施行する。

附　則

この申合せは、平成４年４月１日から施行する。

附　則

この申合せは、平成５年７月 14 日から施行する。

附　則

この申合せは、平成９年８月１日から施行する。

附　則

この申合せは、平成 20 年４月１日から施行する。

附　則

この申合せは、平成 25 年７月１日から施行する。

附　則（平成 25 年 10 月９日）

この申合せは、平成 25 年 11 月１日から施行する。
附　則（平成 29 年１月 25 日）
この申合せは、平成 29 年４月１日から施行する。
附　則（平成 30 年１月 24 日）
１　この申合せは、平成 30 年４月１日から施行する。
２　この申合せの施行日以前に単位修得後退学した者については、この申合せによる改正後の学位論文審査方法等の取扱いに関する申合せの規定にかかわらず、なお従前の例による。
附　則（令和６年１月 10 日）
この申合せは、令和６年４月１日から施行する。